YAMAHA

⚠ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。



取扱説明書

PW80

4BC-28199-JC

はじめに

JAU41583

ヤマハ PW80 をお買いあげいただきありがとうございます。
この取扱説明書はお客様に車の操作、点検、整備をご理解いただけるよう作成されたものです。車の操作やメンテナンスなどに関するご質問は、ヤマハ販売店にお問い合わせください。
この車は一般市販車と異なり、クレーム保証の対象にはなりませんので、あらかじめご了承ください。また、定期点検制度、アフターサービスの対象外となりますので、各自が日頃の点検整備を行って常に最良の調子を保つように心掛けてください。
重要な事項：
● 車に乗る前に、この取扱説明書をよく読んで、説明を理解してください。
● 車に貼られている警告ラベル、注意ラベルをよくお読みください。
● 適切なトレーニングまたは教育を受けないで、車を操作しないでください。
● ライダーの体重は 40 kg を超えないようにしてください。
保護者の方へ重要なお知らせ：
この車は玩具ではありません。お子さんを車に乗らせる前に、保護者の方が取扱説明書の説明や警告を理解してください。その上でお子さんによく理解させ、またお子さんを補佐してください。子供たちは、能力、体力、判断力が 1 人 1 人異なります。車を安全に操作することができない子もいます。保護者の方は、いつもお子さんの車の使いかたを監督してください。お子さんが安全に車を操作できると判断したとしても、できる限り目を配ってください。
この車はパワーリダクションプレート（取り外し可能）を装備して出荷されています。ヤマハは全ての初心者が上達するまでは、パワーリダクションプレートの装着によるパワー制限を行うことを推奨しています。保護者の方は、お子さんのライディング能力の向上に応じてパワーリダクションプレートを取り外す時期を決めてください。ライダーがパワーリダクションプレートを装着した状態での最高速度で走れる技量になったら、パワーリダクションプレートを取り外すことができます。
モーターサイクルは 2 輪の乗り物です。安全に使用、操作できるかどうかは、操作する人のライディングテクニックと経験にかかっています。全ての使用者は、この車に乗る前に以下の必要条件を知っておいてください。
守ってください：
● 車の操作のあらゆる局面について、あらゆる情報から学ぶこと。
● この取扱説明書の警告や点検整備の要件を遵守すること。
● 安全で正しいライディングテクニックのトレーニングを受けること。
● 取扱説明書に示される時期、あるいは車の状態に応じて必要なときに、プロの整備を受けること。

重要な情報

JAU45990

本書では、重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています：

⚠	**安全にかかわる注意情報を示してあります。**
⚠ **警 告**	**取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。**
注 意	**取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。**
要　点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

要　点

- 本書は車両の一部として常に車両とともに保管しておき、人に車両を譲るときは、必ず本書も渡してください。
- ヤマハでは、常に製品の設計および品質の改善をめざしております。したがって、本書に記載されている情報は、本書を印刷した時点で最新のものであり、実際の車両と本書の情報に多少の違いが生じている可能性があります。本書に関する疑問点については、ヤマハ販売店にお問い合わせください。

JWA10031

⚠ 警 告

車を使用する前に、この取扱説明書をよくお読みください。

JWA14351

⚠ 警 告

この車両はオフロード専用です。国土交通省の認定は受けておりませんので、一般の道路、高速道路を走行すると道路交通法および道路運送車両法の違反となります。私道、神社の境内、公園、農道、堤防上など、いわゆる道路としての形態を整えていないところでも人や車が自由に出入りできるところは、一般の道路とみなされます。また、この車は騒音規制に適合しておりません。車を使用する前に、地方条例等を確認してください。

* 製品と仕様は、予告なしに変更されることがあります。

もくじ

重要項目ラベルの貼り付け位置...1-1

安全運転のために 2-1

各部の名称 3-1
左側面..... 3-1
右側面..... 3-2
運転装置と計器類..... 3-3

各部の取り扱いと操作 4-1
ハンドルスイッチ 4-1
パワーリダクションプレート 4-1
シフトペダル 4-1
ブレーキレバー 4-2
ブレーキペダル 4-2
フューエルタンクキャップ 4-2
燃料 4-3
フューエルタンク
　ブリーザーホース 4-4
エンジンオイル 4-4
フューエルコック 4-5
チョークレバー 4-5
キックスターター 4-6
シート 4-6
リヤクッション 4-7
サイドスタンド 4-7

日常点検.....5-1
日常点検の実施 5-1

運転操作.....6-1
エンジン始動
　（エンジンが冷えているとき）.....6-1
エンジン始動
　（エンジンが暖まっているとき）.....6-2
ギヤチェンジのしかた 6-2
ブレーキ 6-3
ならし運転 6-4
駐車 6-4

点検整備.....7-1
定期点検整備 7-1
サービスツール 7-1
定期点検項目（排ガス関連）.....7-2
定期点検整備項目（一般）と給油 7-3
スパークプラグの点検 7-6
パワーリダクションプレートの
　取り外しかた 7-7
トランスミッションオイル 7-8
エアクリーナーエレメントの清掃 7-9
スパークアレスターの清掃 7-10
キャブレターの調整 7-11
エンジンアイドリング
　回転数の調整 7-11
スロットルグリップの
　遊びの調整 7-12
タイヤ 7-13
スポークホイール 7-14
アクセサリーと交換部品 7-14
ブレーキレバーの遊びの調整 7-15
ブレーキペダルの遊びの調整 7-16
シフトペダルの点検 7-16
フロントブレーキシューと
　リヤブレーキシューの点検 7-17
ドライブチェーン 7-17
ドライブチェーンの給油 7-19
ケーブルの点検と注油 7-19
スロットルグリップおよび
　ケーブルの点検と注油 7-19
オートルーブポンプの調整 7-20
ブレーキレバーの点検と注油 7-20
ブレーキペダルの点検と注油 7-20
サイドスタンドの点検と注油 7-21
フロントフォークの点検 7-21
ステアリングの点検 7-22
ホイールベアリングの点検 7-22
車体の支持 7-22
フロントホイール 7-23
リヤホイール 7-25
こんなときは 7-26
トラブルシューティングチャート ...7-27

お車の手入れと保管 8-1
保管のしかた 8-2
アフターケア用品について 8-3

製品仕様 9-1

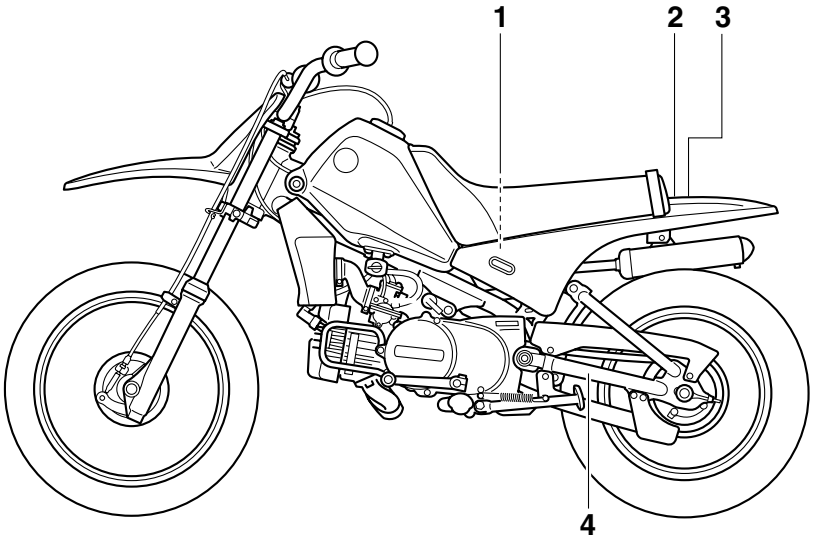
ユーザー情報 10-1
ID 番号 10-1
二輪車を廃棄する場合は？ 10-1
サービスマニュアル（別売）の
　紹介 10-2

重要項目ラベルの貼り付け位置

JAU10384

車両を運転する前に以下に示す重要ラベルをお読みください。

1



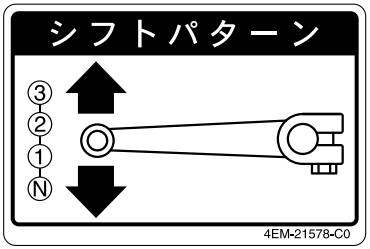
1

⚠ 警 告

高圧窒素ガス入りです。
取扱いを誤ると爆発する恐れがあります。
●取扱説明書をよく読んでください。
●火中への投入、穴あけ、分解はしないでください。

4AA-22259-50

2



3

⚠ 警 告

● ご使用の前には必ず取扱説明書とラベルをよく読んでください。
● この車は1人乗りです。
運転者以外に人を同乗させると安定を失い危険です。
● この車は一般公道では走れません。
一般公道を走行するために必要な保安部品を装備していません。
● 正しい服装で運転してください。
ヘルメット、ゴーグル等の保護具を着用してください。

5PA-2118K-20

4

タイヤ標準空気圧

タイヤが冷えているときに調整してください。

前輪 : 100kPa, { 1.00kgf /cm^2}
後輪 : 100kPa, { 1.00kgf /cm^2}

YAMAHA 3XJ-21668-10

安全運転のために

JAU4121A

2

使用者の責任

車両の使用者として、安全で適切な操作を行う責任があります。
バイクは二輪の乗り物です。安全に利用、運転するためには、適切な運転技術と運転知識を備えている必要があります。この車を運転するには、次の条件を満たしていなければなりません。
運転者は：

- 車の操作に関するあらゆる局面について、あらゆる情報から学ぶこと。
- この取扱説明書の警告や点検整備の要件を遵守すること。
- 安全で正しいライディングテクニックのトレーニングを受けること。
- 取扱説明書に示される時期、あるいは車の状態に応じて必要なときに、充分な整備技術のある整備士の整備を受けること。

安全運転

走行前には必ず点検を行い、車両が安全に運転できる状態にあるかを確認してください。点検整備を怠ると、事故や車両の損傷につながる可能性が高くなります。走行前点検については、5-1 ページを参照してください。

- この車両はオフロード専用です。一般の道路、高速道路を走行すると道路交通法および道路運送車両法の違反となります。また、私道、神社の境内、公園、農道、堤防上など、いわゆる道路としての形態を整えていないところでも人や車が自由に出入りできるところは、一般の道路とみなされます。
- この車両は一人乗り専用です。運転者以外の人を乗せることはできません。
- バイク事故の主な原因は、他の車両のドライバーが走行中のバイクを見落としたり、発見が遅れることによります。多くの事故が、他の車両のドライバーがバイクに気づかなかったことで起きています。こうした見落とし事故を減らすため、周りから認知されやすい目立つ服装を心がけてください。

  具体的には：
  - 明るい色の服を着用してください。
  - 他の運転者から見える位置を走行してください。運転者の死角を走行しないでください。
- 経験不足のライダーが多くの事故に巻き込まれています。
  - ライダーはバイクに乗る技量が充分な人でなければなりません。またバイクに乗る技量が充分な人のみに貸すようにしてください。
  - ご自身の技量と限界を熟知してください。自分の限界を超えないことが事故防止には大切です。
  - バイク自体とすべての運転操作に慣れるまで、運転操作の練習をすることをおすすめします。
- 多くの事故はライダーのミスによって起きます。典型的な例は、スピードの出し過ぎやバンク角不足によってコーナーを曲がりきれなくなることです。速すぎる速度で走行しないでください。
- 慣れない場所では注意して運転してください。隠れた障害物に出くわし、事故につながるおそれがあります。
- ライダーの姿勢は、正しい運転操作の上で重要です。両手でハンドルを握って、両足をフットレストに置き、車両をコントロールしてください。
- 酒気を帯びているとき、また薬を飲んだときは運転しないでください。
- エンジンを始動する前に、必ずギヤをニュートラルにしてください。

身体を保護する服装

バイクの事故による死亡原因のトップは頭部への傷害です。頭部への傷害を防いだり軽減させるために、必ずヘルメットを着用してください。

- ヘルメットはPSCまたはSG、JISマークのある二輪車用を必ず着用してください。
- ヘルメットのシールドまたはゴーグルを着用してください。目を保護しないと、風圧の影響で視力が落ち、危険物の発見が遅れるおそれがあります。
- すり傷、切り傷を防ぐため、ジャケット、ブーツ、ズボン、グローブなどを着用してください。

- だぶついた服は着用しないでください。レバー、フットレスト、ホイールなどにからまり、傷害や事故につながるおそれがあります。
- 防護服を必ず着用し、つま先、かかと、脚部を露出させないでください。運転中や運転直後は、エンジンや排気装置が非常に高温になるため、ヤケドするおそれがあります。

一酸化炭素中毒の予防

すべての排気ガスは、有毒な一酸化炭素を含んでいます。一酸化炭素を吸い込むと、頭痛、めまい、眠気、吐き気、意識障害を起こし、最悪の場合、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は無味無臭で無色のガスです。このため、排気ガスが見えない状態や臭いがしない状態でも無意識のうちに一酸化炭素を吸ってしまうおそれがあります。一酸化炭素をいったん吸い込むと、すぐに致死量に達して短時間のうちに意識不明となり死亡するおそれがあります。また、密閉された場所や換気が不充分な場所では、数時間や数日にわたって致死量レベルの一酸化炭素が残ってしまうおそれがあります。万一、中毒症状が現れた場合は、すぐに換気のよいところに移動し、医師の手当てを受けてください。

- 屋内でエンジンをかけないでください。換気扇を回したり窓やドアを開けて換気しても、短時間のうちに一酸化炭素が充満するおそれがあり危険です。
- 倉庫や車庫などの、換気が不充分な場所や閉鎖的な場所でエンジンをかけないでください。
- 屋外であっても、排気ガスが窓やドアなどの開口部から建物の中に吸い込まれる可能性がある場所では、エンジンをかけないでください。

積載

アクセサリーの装着によって車両の重量配分が変化した場合、操縦安定性やハンドリングに重大な影響を及ぼします。アクセサリーを装着するときは、充分に注意してください。また、アクセサリーを取り付けた車両を運転するときは、充分に注意してください。以下は車両にアクセサリーを装着する際に守るべき、一般的なガイドラインです。

過積載車両の運転は事故を引き起こすおそれがあります。

- 体重が 40 kg を超えるライダーは乗車しないでください。
- アクセサリーの重量はできるだけ、軽いものにしてください。いちばん重いものを車両の中心近くに積載し、なるべく車両の重量を左右均等に配分させ、偏ったり、不安定な状態はさけてください。
- 重量が移動すると、急に不安定になるおそれがあります。アクセサリーは、運転前に車両に確実に取り付けるようにしてください。アクセサリーの取り付け状態をこまめに点検してください。
  - タイヤの状態と空気圧を点検し、サスペンションの調整が可能なモデルについては、負荷に合わせてサスペンションを調整してください。
  - ハンドル、フロントフォーク、フロントフェンダーには大きなアクセサリーや重量のあるアクセサリーを取り付けないでください。

ヤマハ純正アクセサリー

アクセサリーを装備する場合は、慎重に製品を選んでください。ヤマハ純正アクセサリーは、ヤマハによって設計、テスト、および車両への使用が認められたアクセサリーです。ヤマハと無関係な多くのメーカーで、ヤマハ車用のパーツやアクセサリーが製造されていたり、その他の改造品が提供されています。ヤマハは、アフターマーケットで販売されているこうした製品をテストすることができません。したがって、ヤマハ製以外のアクセサリーの使用やヤマハで特に推奨していない改造については、ヤマハの販売店で販売されていたり取り付けが行われた場合でも、保証および推奨できません。

アフターマーケット製品、アクセサリー、改造

デザインや品質面でヤマハ純正アクセサリーと類似しているアフターマーケット製品でも、一部のアフターマーケット製品や改造は、安全上、問題となる場合があります。アフターマーケット製品の取り付けや、車両の設計特性や操作性を変えてしまうようなその他の改造を行うと、運転者や周囲の人が重傷や死亡に至る危険性を高める場合があります。車両の加工や改造に関連したけがや損害については、使用者の自己責任となります。

アクセサリーを取り付ける場合は、前述の「積載」の注意と合わせて次のことに注意してください。

- 車の性能を損なうアクセサリーを取り付けないでください。アクセサリーを装備する場合は、アクセサリーの取り付けによって、地上高やコーナリングクリアランスが減らないか、サスペンションの動き、ステアリングの取り回し、制御操作が妨げられないかを、事前に念入りに点検してください。
  - ハンドルやフロントフォークにアクセサリーを取り付けると、重量配分の変化によって安全性が損なわれる場合があります。ハンドルやフロントフォークにアクセサリーを取り付ける場合は、できるだけ軽量のものを最小限取り付けるようにしてください。
  - 大型でかさばるアクセサリーは、車の安定性に大きな影響を与える場合があります。風を受けて車が浮き上がりそうになったり、横風にバランスを崩される可能性があります。
  - アクセサリーによっては、運転者が通常の乗車位置に座れなくなる場合があります。乗車位置が不適切だと体の動きが制限され、車両制御に影響を与えるおそれがあるため、こうしたアクセサリーの装備はおすすめしません。
- 電装アクセサリーの取り付けには注意が必要です。電装アクセサリーが電気系統の容量を超えると、電気系統が故障し、照明装置などの機能低下やエンジン出力低下の原因となり危険です。

アフターマーケット製のタイヤとリム

車両に装着されているタイヤとリムは、車両の性能に合わせて、最適な操縦性、制動性、乗り心地が得られるように設計されています。指定外のタイヤ、リム、サイズを組み合わせての装着は、不都合が生じる場合があります。タイヤの仕様と交換について、7-13 ページを参照してください。

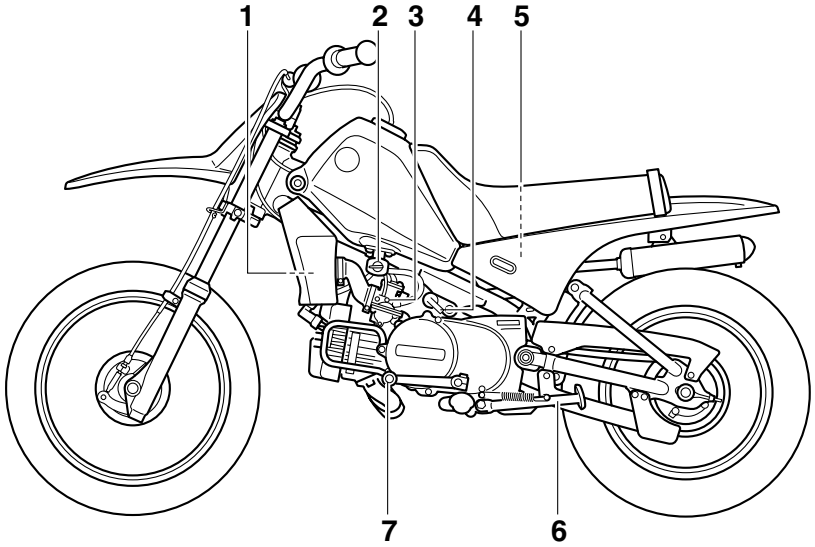
運搬

車を運搬する際は、下記の内容を必ず守ってください。

- 車から、運搬中落下の可能性がある部品を取り外してください。
- フューエルコック装備車の場合、フューエルコックが OFF になっているか、また燃料漏れしていないかを確認してください。
- トレーラーの上またはトラックの荷台で、車のフロントホイールをまっすぐにし、フロントホイールをレールなどでしっかりと固定してください。
- マニュアルミッション車の場合、ギヤを入れてください。
- しっかりとした部分、例えばフレームまたはフロントフォークのアンダーブラケットなどを、固定用ベルトまたは適当なひもを使用して固定してください。（ラバーマウントのハンドルまたは方向指示灯などの壊れやすい部分を固定しないでください。）なお、運搬中に塗装面をこすらないように、慎重にひもを掛ける場所を選んでください。
- 運搬中に車がおおきくバウンドしないように、固定用ベルトなどでリヤサスペンションをある程度まで圧縮させてください。

JAU10410

左側面

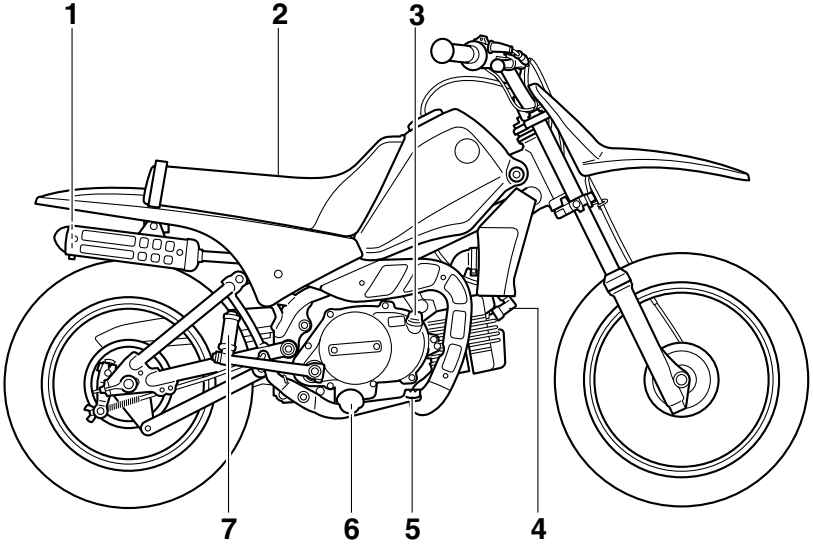


1. エアクリーナーエレメント（P 7-9）
2. フューエルコック（P4-5）
3. スロットルストップスクリュー（P7-11）
4. チョークレバー（P4-5）
5. エンジンオイルタンク（P4-4）
6. サイドスタンド（P4-7）
7. シフトペダル（P4-1/6-2）

各部の名称

JAU10420

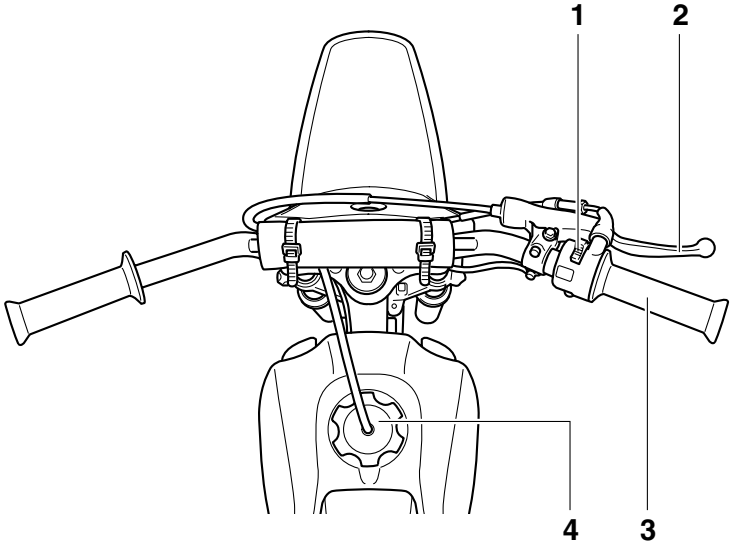
右側面



1. スパークアレスター（P7-10）
2. シート (P4-6)
3. トランスミッションオイル注入口 (P7-8)
4. スパークプラグキャップ (P7-6)
5. ブレーキペダル（P 4-2）
6. トランスミッションオイルドレンボルト (P7-8)
7. キックスターター（P4-6）

JAU10430

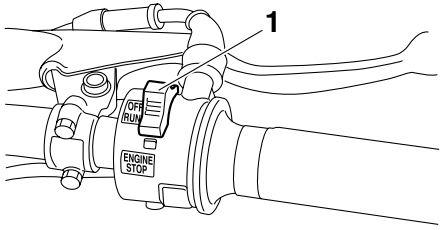
運転装置と計器類



1. エンジンストップスイッチ（P 4-1）
2. ブレーキレバー（P4-2）
3. スロットルグリップ（P7-12）
4. フューエルタンクキャップ（P4-2）

JAU40660

ハンドルスイッチ



1. エンジンストップスイッチ “ENGINE STOP”

JAU41130

エンジンストップスイッチ “ENGINE STOP”

エンジンを始動する前に、このスイッチを RUN にしておきます。このスイッチを OFF にするとエンジンが停止します。

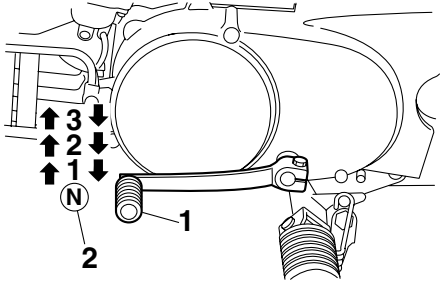
JAU41591

パワーリダクションプレート

お買い求めの車両はパワーリダクションプレートが装着された状態で出荷されています。ヤマハでは、全ての初心者が運転に慣れるまでは、パワーリダクションプレートを取り付けて走行することを推奨いたします。
お子さんの運転技量の向上に合わせて、車両のパワー調整を行うかどうか判断してください。ライダーが、パワーリダクションプレートが装着された状態での最高速度で走行できるようになったら、パワーリダクションプレートを取り外すことができます。（7-7 ページ参照）

JAU39851

シフトペダル

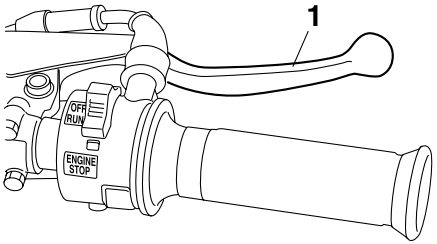


1. シフトペダル
2. ニュートラル

この車には常時かみ合式、ボトムニュートラルの 3 段変速機が装備されています。シフトペダルは車両の左側にあります。

JAU12890

ブレーキレバー

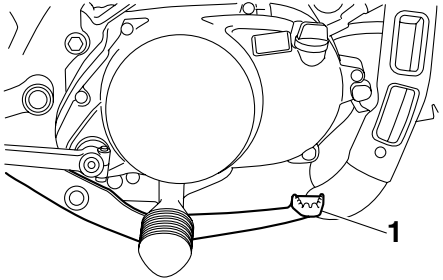


1. ブレーキレバー

ブレーキレバーは、ハンドルの右グリップ部に取り付けられています。フロントブレーキをかけるには、このレバーをハンドルのグリップに向けて握ります。

JAU12941

ブレーキペダル



1. ブレーキペダル

ブレーキペダルは、車体の右側にあります。リヤブレーキをかけるには、ブレーキペダル踏み込みます。

JAU13182

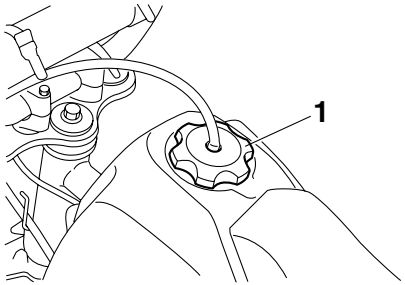
フューエルタンクキャップ

JWA12171

⚠警 告

給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- **給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。**
- **フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があり、ヤケドするおそれがあります。**
- **給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。**
- **給油は、必ず屋外で行ってください。**
- **セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。**
- **給油限度（フィラーチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。**
- **給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。**



1. フューエルタンクキャップ

フューエルタンクキャップを取り外すときは、キャップを反時計方向に回して取り外します。
フューエルタンクキャップを取り付けるときは、キャップを給油口に挿入し、時計方向に回して取り付けます。

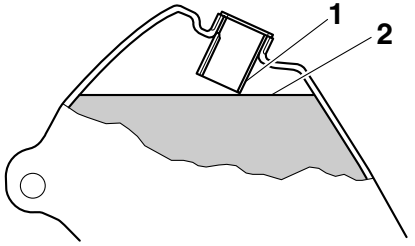
JWA11091

⚠ 警 告

運転する前に、フューエルタンクキャップが正しく締まっているか確認してください。

JAU13212

燃料



1. フィラーチューブ
2. 給油限度

フューエルタンクに充分な燃料が入っているか、確認してください。図のようにフィラーチューブの下部まで給油してください。

JWA10881

⚠ 警 告

- **給油限度を超えてガソリンを入れると、ガソリンが温まって膨張したときにあふれるおそれがあります。**
- **高温のエンジンにガソリンをこぼさないように注意してください。**

JCA10071

注 意

こぼれたガソリンは、きれいな乾いた柔らかい布で直ちにふき取ってください。放置しておくと、塗装面やプラスチック部分を損傷するおそれがあります。

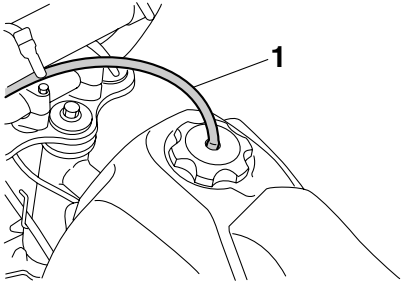
JAU13270

指定燃料：
無鉛レギュラーガソリン
タンク容量：
4.9 L
予備容量：
1.0 L

この車のエンジンは無鉛レギュラーガソリンを使うように設計されています。ノッキングやピンギングが発生した場合は、別の銘柄のガソリン、または無鉛プレミアムガソリンを使用してください。

JAU13412

フューエルタンクブリーザーホース



1. フューエルタンクブリーザーホース

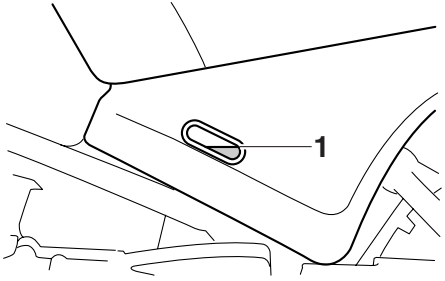
乗車の前に：

- フューエルタンクブリーザーホースの接続を点検します。
- フューエルタンクブリーザーホースを点検します。ひび、損傷がある場合はヤマハ販売店へ交換を依頼してください。
- フューエルタンクブリーザーホースがつまっていないか確認し、必要に応じて清掃します。

JAU41202

エンジンオイル

エンジンオイルタンクに充分オイルがあることを確認してください。図のように2ストロークエンジンオイルがロアレベル以下の場合は、以下のように補充してください。

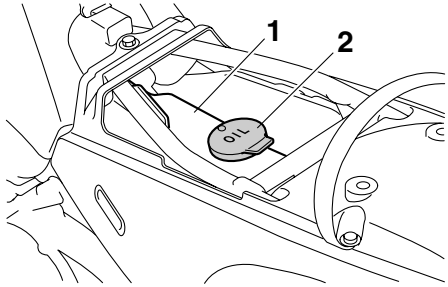


1. ロアレベル

要　点

エンジンオイルレベルの点検は、車を平坦な場所に垂直に立てて行ってください。車が傾いていると、正しく読み取ることができません。

1. シートを取り外します。(4-6 ページ参照)
2. オイルタンクキャップを外し、エンジンオイルを補給します。



1. エンジンオイルタンク
2. オイルタンクキャップ

推奨オイル：
(8-3 ページ参照)
オイル容量：
0.75 L

3. オイルタンクキャップを取り付けます。

JCA16670

注 意

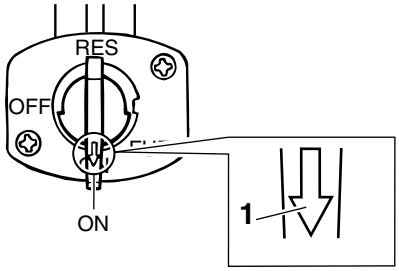
オイルタンクキャップが確実に取り付けられていることを確認してください。

4. シートを取り付けます。

JAU13561

フューエルコック

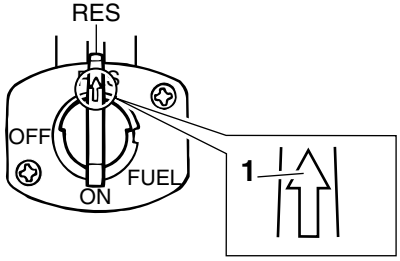
ON



1. 矢印が “ON” を指している

始動および走行時のレバー位置です。

RES

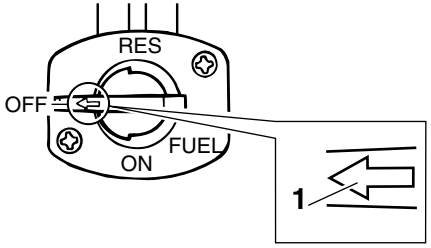


1. 矢印が “RES” を指している

予備燃料（予備容量約 1.0 L）を使用するときのレバー位置です。

ON で走行中にガソリンがなくなったら、レバーをこの位置にします。予備燃料が使用できますが早めに給油してください。給油を終えたらレバーを ON に戻してください。

OFF



1. 矢印が “OFF” を指している

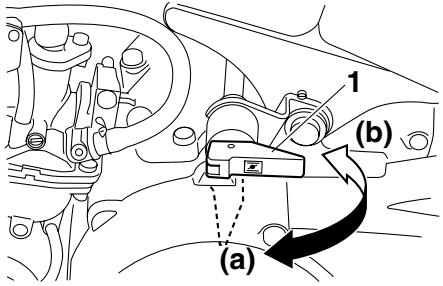
駐車時のレバー位置です。
ガソリンは流れません。

要　点

長期間使用しないときは、レバーを必ず OFF の位置にしてください。

JAU13590

チョークレバー “ ”

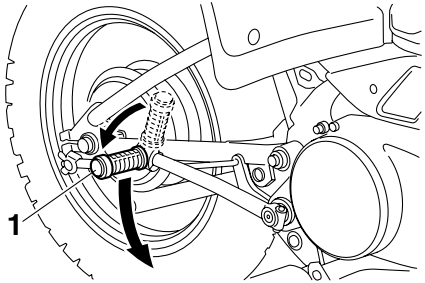


1. チョークレバー “ ”

エンジンが冷えているときは、チョークを使用するとエンジンの始動が容易になります。
レバーを (a) 方向に移動させ、チョークをオンにします。
レバーを (b) 方向に移動させ、チョークをオフにします。

JAU13680

キックスターター



1. キックスターターレバー

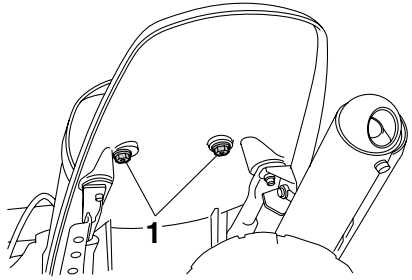
エンジン始動時に、キックスターターレバーを出し、力強くキックします。

JAU41140

シート

シートの取り外しかた

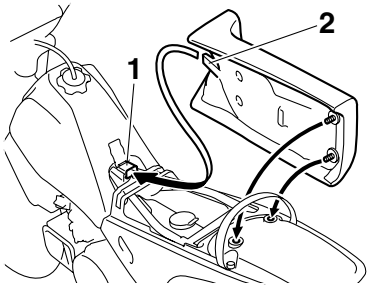
ナットを外し、シートを取り外します。



1. ナット

シートの取り付けかた

1. シート前部の突起を図のようにシートホルダーに差し込みます。



1. シートホルダー
2. 突起

2. シートを元の位置に取り付け、ナットを締め付けます。

要　点

乗車する前に、シートが正しく取り付けられていることを必ず確認します。

JAU46021

リヤクッション

JWA10221

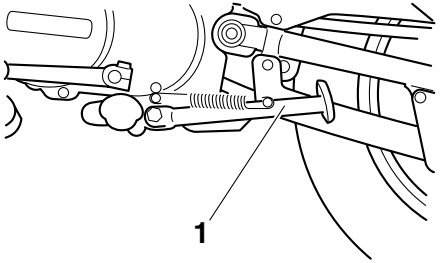
⚠警 告

リヤクッションユニットには高圧窒素ガスが封入されています。リヤクッションユニットを取り扱う場合は、必ず下記のことを厳守してください。

- **シリンダー本体を加工または分解しないでください。**
- **リヤクッションユニットを火気の中に投げ込まないでください。高温にさらすとガスが膨張し、爆発するおそれがあります。**
- **シリンダーを変形させたりダメージを与えないでください。これを行うと、減衰力が低下するおそれがあります。**
- **損傷または変形したリヤクッションユニットを、ご自分で処分しないでください。リヤクッションユニットの処分が必要なときは、ヤマハ販売店にご相談ください。**
- **点検整備については、必ずヤマハ販売店にて実施してください。**

JAU37490

サイドスタンド



1. サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

JWA14250

⚠警 告

- **サイドスタンドを出したまま走行すると、スタンドが地面に接触して運転操作に支障をきたすことがあり、たいへん危険です。**
- **走行中にサイドスタンドを操作すると、思わぬ事故の原因となります。走行中はサイドスタンドを操作しないでください。**

要 点

サイドスタンドがスムーズに作動しないときは、取付部に注油してください。

JAU42183

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、走行前点検リストに基づいた日常点検を必ず実施してください。

JWA12031

⚠警 告

● 日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
● 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。）

走行前点検リスト

項目	点検、整備内容	参照ページ
燃料	● フューエルタンクの残量を点検します。 ● 必要に応じて補給します。 ● 燃料の漏れがないか点検します。 ● フューエルタンクブリーザーホースにつまり、ひび、損傷がないか、また正しく接続されているか点検します。	4-3, 4-4
エンジンオイル	● オイル量を点検します。 ● 必要に応じて指定のオイルを規定量まで補充します。 ● オイル漏れがないか点検します。	4-4
トランスミッションオイル	● オイル量を点検します。 ● 必要に応じて指定のオイルを規定量まで補充します。	7-8
フロントブレーキ	● 作動を点検します。 ● 必要に応じてブレーキケーブルに注油します。 ● ブレーキレバーの遊びの量を点検します。 ● 必要に応じて調整します。	7-15, 7-17
リヤブレーキ	● 作動を点検します。 ● ブレーキペダルの遊びの量を点検します。 ● 必要に応じて調整します。	7-16, 7-17

日常点検

項目	点検、整備内容	参照ページ
スロットルグリップ	● 作動がスムーズであるか点検します。 ● スロットルグリップの遊びを点検します。 ● 必要に応じて、ヤマハ販売店へスロットルグリップの遊びの調整、ケーブルおよびグリップハウジングの注油を依頼します。	7-12, 7-19
コントロールケーブル	● 作動がスムーズであるか点検します。 ● 必要に応じて注油します。	7-19
ドライブチェーン	● チェーンのたわみ量を点検します。 ● 必要に応じて調整します。 ● チェーンの状態を点検します。 ● ヤマルーブ 180 チェーンオイルを給油します。	7-17, 7-19
ホイールとタイヤ	● ホイールに損傷がないか点検します。 ● タイヤの状態と溝の深さを点検します。 ● 空気圧を点検します。 ● 必要に応じて調整、交換します。	7-13, 7-14
シフトペダル	● 作動が滑らかであるか点検します。 ● 必要に応じて調整します。	7-16
ブレーキペダル	● 作動が滑らかであるか点検します。 ● 必要に応じてペダルの取り付け部分に注油します。	7-20
ブレーキレバー	● 作動がスムーズであるか点検します。 ● 必要に応じてレバーの取り付け部に注油します。	7-20
サイドスタンド	● 作動がスムーズであるか点検します。 ● 必要に応じて取り付け部に注油します。	7-21
車体の締付具合	● ナット、ボルト、スクリューが規定トルクで締まっているか点検します。 ● 必要に応じて締め付けます。	—
エンジンストップスイッチ	● 作動を点検します。	4-1

JAU46050

JWA14620

⚠警 告

- **この車両はオフロード専用です。乗車前に各部の取り扱いと操作に慣れてください。操作でご不明な場合はヤマハ販売店にご相談ください。**
- **風通しの悪い場所でエンジンを始動したり、かけたままにしないでください。排気ガスには毒性があり、短時間のうちに意識を失ったり、死を招くおそれがあります。常に風通しのよい場所でエンジンを始動してください。**
- **発進の前に、サイドスタンドを上げてください。サイドスタンドを正しく上げないと地面に接地し、ライダーを混乱させたり、操縦安定性を損なわせるおそれがあります。**

JAU41157

エンジン始動（エンジンが冷えているとき）

1. フューエルコックを ON にします。
2. エンジンストップスイッチを RUN にセットします。
3. ギヤをニュートラルにします。

JWA14410

⚠警 告

- **エンジンを始動する前に、ギヤをニュートラルにしてください。**
- **サイドスタンドを下げたまま走行しないでください。**

4. チョークをオンにし、スロットルを完全に閉めます。（4-5 ページ参照）
5. キックして、エンジンを始動させます。
6. エンジンが始動したら、チョークを途中まで戻します。

JCA15991

注 意

- **エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ぶかしは避けてください。**
- **長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。**
- **通常のアイドリング回転数を必要以上に高くした状態（アイドルアジャスターの誤った調整や、スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。**

7. エンジンが暖まったら、チョークをオフにします。

JCA15670

注 意

- **チョークをオンにしたまま、長時間放置しないでください。故障の原因になるおそれがあります。**
- **走行するときは必ず、チョークをオフにしてください。**

要 点

チョークをオフにした状態でエンジンがスロットルにすぐに反応すれば、エンジンは暖まっています。

JAU16660

エンジン始動（エンジンが暖まっているとき）

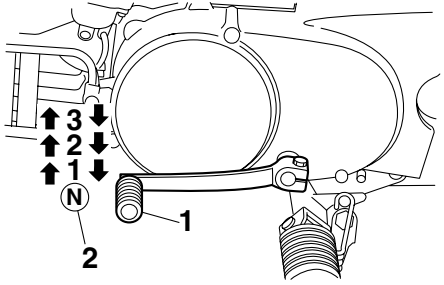
エンジンが暖まっているときは、チョークを必要としないことを除いて、エンジンが冷えているときのエンジン始動と同じ手順で行います。その代わり、スロットルを少し開けた状態でエンジンを始動させます。

要　点

数回キックしてもエンジンが始動しない場合、スロットルを 1/4 から 1/2 開けて再度試みます。

JAU39901

ギヤチェンジのしかた



1. シフトペダル
2. ニュートラル

この車は自動遠心式クラッチの 3 段変速です。ギヤチェンジを行って発進、加速や坂道を登るときなどに必要なエンジンのパワーを調整します。
ギヤのポジションは図に示すようになっています。

要　点

ニュートラルにシフトするには、シフトペダルを一番下に行くまで繰り返し踏み込みます。

JCA15441

注 意

● ギヤがニュートラルの位置の状態でも、エンジンをかけないまま長時間惰性で走らせないでください。また、長い距離を牽引しないでください。トランスミッションはエンジンが回転している時のみ、適切に潤滑されます。潤滑不足によりトランスミッションに損傷を与えることがあります。

● ギヤを変えるときは、エンジン、トランスミッション、ドライブチェーンの損傷を防ぐため、スロットルグリップを戻してください。エンジン、トランスミッション、ドライブチェーンは、スロットルグリップを開けたままでのシフト操作に耐えられるようには設計されていません。

JAU39911

発進と加速のしかた

1. スロットルを閉じます。
2. ギヤを 1 速に入れ、シフトペダルを放します。

JCA15461

注 意

ギヤチェンジはスロットルグリップを戻してから行ってください。無理なギヤチェンジは故障の原因になります。

3. 少しづつスロットルを開けます。
4. 車が変速に適した速度に達したら、スロットルを閉じます。
5. ギヤを 2 速に入れ、シフトペダルを放します。
6. 少しづつスロットルを開けます。
7. 次のギヤに変速する時は同じ手順で行ってください。

JAU16710

減速のしかた

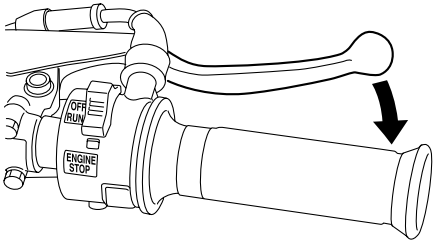
1. スロットルを完全に閉じます。フロントブレーキとリヤブレーキを同時に徐々にかけます。
2. 順にシフトダウンして行き、車両が停止したらギヤをニュートラルに入れます。

JAU44680

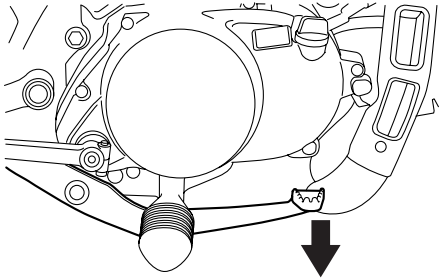
ブレーキ

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリヤブレーキを同時に、徐々にかけます。

フロントブレーキ



リヤブレーキ



JWA14571

⚠ 警 告

- **急ブレーキ（特に車体が傾いているとき）は避けてください。車両が滑ったり、転倒するおそれがあります。**
- **濡れた地面でのブレーキングはより難しいことを覚えていてください。**
- **坂を下っているときのブレーキングはとても難しいものです。下り坂はゆっくり走行してください。**
- **連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。**

JAU39920

ならし運転

最初の 5 時間のならし運転は、エンジンの寿命にとって重要です。同じようにこの期間、ライダーがバイクになれることも重要です。以下の説明をよくお読みください。
エンジンは新品ですので、最初の 5 時間は過度な負荷をかけないでください。エンジン内の各部品が互いに摩擦、摺動することで正しい作動クリアランスとなります。この期間中、エンジンのオーバーヒートになりかねない長時間の全開運転は避けてください。しかし、短時間（最大 2 ～ 3 秒）であれば、スロットルを全開にしてもエンジンに悪影響はありません。スロットルを全開にする操作は、休み休み行ってください。また、スロットル全開操作により熱を持ったエンジンを冷やすために、低いエンジン回転数で走行しながら行ってください。
ならし運転後、部品がゆるんでいないか、オイル洩れや問題がないかを念入りに点検してください。特にケーブルやドライブチェーンのゆるみ、スポークのゆるみの点検、調整をしてください。さらに、各部のゆるみを点検し、必要であれば締め付けます。

JCA10270

注 意

ならし運転の間にエンジントラブルが発生したときは、すぐにヤマハ販売店にて車両を点検してください。

JAU17191

駐車

駐車するときは、エンジンを止め、フューエルコックを OFF にします。

JWA10311

⚠警 告

- **エンジンとエキゾーストシステムは非常に高温になることがあるので、歩行者や子供がそれらに触れないような場所に駐車してください。**
- **斜面や軟弱な地面には駐車しないでください。車が転倒するおそれがあります。**
- **草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。**

JAU17293

安全を保つことは所有者の義務のひとつです。定期的な点検、調整や注油によって、車両の安全性と本来の性能を保つことができます。点検、調整や注油の重要なポイントについて以下の各ページで説明します。

JWA10321

⚠警 告

点検整備を怠ったり正しく整備を行わないと、乗車中や整備中、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。整備作業について自信がない場合は、ヤマハ販売店に作業を依頼してください。

JWA15460

⚠警 告

走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリパー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が充分に冷えてから行ってください。

JAU42370

定期点検整備

車両の正しい定期点検整備は、長くバイクを楽しんでいただく上で重要です。また、エンジンが充分に性能を発揮するためにも重要です。整備には、各種のデータ、知識、器具が必要です。ヤマハ販売店は、これらの整備を行なう上での訓練を受けており、設備も備わっています。

JWA10340

⚠警 告

ヤマハが認可しない改造は、性能を低下させたり、排気ガスを悪化させたり、安全性を低下させたりするおそれがあります。変更を行う前にヤマハ販売店にご相談ください。

JAU17311

サービスツール

本書に書いてある整備情報と、サービスツールに含まれる工具は、所有者がトラブル防止のための整備と簡単な修理を実行する際に役立てることができます。しかし、整備作業を正しく行うためには、トルクレンチなど別の工具が必要になります。

要 点

整備に必要な工具や経験をお持ちでない場合は、ヤマハ販売店に作業を依頼してください。

JWA10340

⚠警 告

ヤマハが認可しない改造は、性能を低下させたり、排気ガスを悪化させたり、安全性を低下させたりするおそれがあります。変更を行う前にヤマハ販売店にご相談ください。

JAU49900

定期点検項目（排ガス関連）

要　点

- 160 時間以降は、40 時間の点検項目に戻って点検整備を繰り返してください。
- * 印の項目は、特殊工具、データ、技能を必要とするため、ヤマハ販売店に点検整備をご依頼ください。

NO.		項目	点検、整備内容	初回				以降の整備間隔		
				10 時間	20 時間	40 時間	80 時間	40 時間	80 時間	160 時間
1	*	燃料系統	● フューエルホースに亀裂や損傷がないか点検します。 ● 必要に応じて交換します。	√		√		√		
2		スパークプラグ	● 状態を点検します。 ● ギャップを調整し、清掃します。 ● 必要に応じて交換します。	√	√	√		√		
3		エアークリーナーエレメント	● きれいな灯油で洗浄します。 ● 必要に応じて交換します。		√	√	√	√		
4	*	キャブレター	● エンジンアイドリング回転数とチョークの作動を点検します。		√	√	√		√	
			● 清掃します。 ● 必要に応じて交換します。							√
5	*	シリンダーヘッドと排気系統	● 漏れがないか点検します。 ● 必要に応じて増し締めします。 ● 堆積したカーボンを取り除きます。			√			√	
6	*	スパークアレスター	● 清掃します。			√		√		

JAU41767

定期点検整備項目（一般）と給油

要　点

- 160 時間以降は、40 時間の点検項目に戻って点検整備を繰り返してください。
- * 印の項目は、特殊工具、データ、技能を必要とするため、ヤマハ販売店に点検整備をご依頼ください。

NO.		項目	点検、整備内容	初回				以降の整備間隔		
				10 時間	20 時間	40 時間	80 時間	40 時間	80 時間	160 時間
1	*	クラッチ	● 作動を点検します。 ● 必要に応じて調整します。		√	√		√		
2	*	フロントブレーキ	● 作動を点検します。 ● ブレーキレバーの遊びの量を調整します。		√	√		√		
			● ブレーキシューを交換します。	摩耗限度に達したとき						
3	*	リヤブレーキ	● 作動を点検します。 ● ブレーキペダルの遊びの量を調整します。		√	√		√		
			● ブレーキシューを交換します。	摩耗限度に達したとき						
4	*	ホイール	● 振れ、スポークのゆるみや損傷がないかを点検します。 ● 必要に応じてスポークを増し締めします。	√	√	√		√		
5	*	タイヤ	● 溝の深さと損傷がないかを点検します。 ● 必要に応じて交換します。 ● 空気圧を点検します。 ● 必要に応じて調整します。	√	√	√		√		
6	*	ホイールベアリング	● ベアリングがスムーズに動くか点検します。 ● 必要に応じて交換します。				√	√		

NO.		項目	点検、整備内容	初回				以降の整備間隔		
				10時間	20時間	40時間	80時間	40時間	80時間	160時間
7	*	ステアリングベアリング	● ベアリングにゆるみがないか点検します。 ● ヤマハグリース B を再封入します。				√			√
8		ドライブチェーン	● チェーンの張り、たわみと状態を点検します。 ● 調整して ヤマルーブ180 チェーンオイルを給油します。	乗車毎						
			● 取り外して清掃します。			√		√		
9	*	車体各部の締め付け	● 車体各部が正しく締め付けられているか点検します。 ● 必要に応じて修正します。	√	√	√	√	√		
10		サイドスタンドの取り付け部	● 作動を点検します。 ● ヤマハグリース B を薄く塗布します。			√			√	
11	*	フロントフォーク	● 作動とオイル漏れがないかを確認します。 ● 必要に応じて交換します。				√		√	
12	*	リヤクッション	● 作動とオイル漏れがないかを確認します。 ● 必要に応じて交換します。				√		√	

NO.		項目	点検、整備内容	初回				以降の整備間隔		
				10時間	20時間	40時間	80時間	40時間	80時間	160時間
13	*	オートルーブポンプ	● 作動を点検します。 ● 必要に応じて調整します。	√	√	√		√		
14		トランスミッションオイル	● オイル漏れがないか点検します。 ● 必要に応じて修正します。 ● 交換します。		√	√			√	
15	*	ケーブル類	● ヤマルーブ180ワイヤーグリースを薄く塗布します。			√	√		√	
16	*	スロットルグリップハウジングとケーブル	● 作動と遊びの量を点検します。 ● ヤマルーブ180ワイヤーグリースを薄く塗布します。	√	√	√		√		
17		ブレーキレバーの取り付け部	● ヤマハグリースBを薄く塗布します。			√			√	
18		ブレーキペダルの取り付け部	● ヤマハグリースBを薄く塗布します。			√			√	

要　点

著しく湿気やほこりの多い地域で走行している場合は、通常より頻繁にエアクリーナーエレメントを点検整備する必要があります。

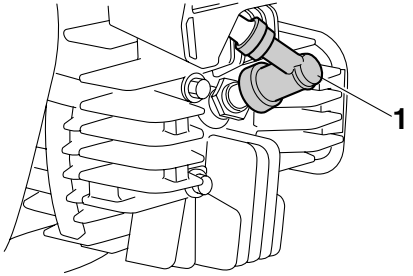
JAU19604

スパークプラグの点検

スパークプラグはエンジンの重要な部品のひとつですが、簡単に点検することができます。熱や堆積物のため、どんなスパークプラグでも徐々に腐食が進みますから、スパークプラグは必ず「定期点検項目（排ガス関連）」に従って取り外し、点検してください。また、スパークプラグの状態によって、エンジンの状態がわかることもあります。

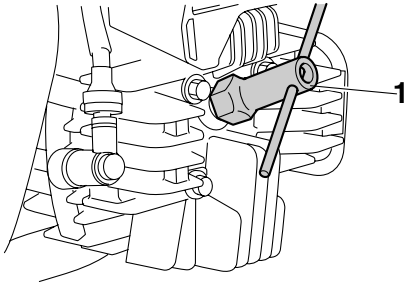
スパークプラグの取り外しかた

1. スパークプラグキャップを取り外します。



1. スパークプラグキャップ

2. 図のようにスパークプラグを取り外します。スパークプラグレンチはサービスツールの中にあります。



1. スパークプラグレンチ

スパークプラグの点検のしかた

1. スパークプラグの中心電極の周りのガイシが淡いキツネ色になっているかを点検します。（淡いキツネ色に焼けているのが理想です。）

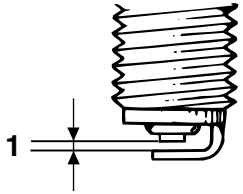
要　点

スパークプラグが明らかに違う色を示している場合は、エンジンが適正に運転されていない可能性があります。このようなときはご自分で判断を行わずにヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

2. スパークプラグを調べて電極の腐食や過度のカーボンやその他の堆積物がないかを確認し、必要に応じてスパークプラグを交換します。

指定スパークプラグ：
NGK/BPR6HS

3. シックネスゲージでスパークプラグのギャップを測定し、必要に応じて規定値に合うようにギャップを調整します。



1. プラグギャップ

スパークプラグギャップ：
0.6–0.7 mm

スパークプラグの取り付けかた

1. スパークプラグガスケットの表面と、その合わせ面を清掃し、スパークプラグのねじ山に汚れがあればふき取ります。
2. スパークプラグレンチを使ってスパークプラグを取り付け、規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
スパークプラグ：
25 Nm (2.5 kgf·m)

要　点

スパークプラグを取り付けるときにトルクレンチが利用できない場合、指で締め付けてから 4 分の 1 から 2 分の 1 回転させると、ほぼ正しい締め付けトルクになります。しかし、できるだけ早く規定の締め付けトルクで締め付けを行ってください。

3. スパークプラグキャップを取り付けます。

JAU41103

パワーリダクションプレートの取り外しかた

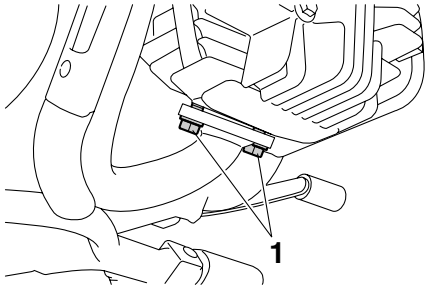
エンジン性能を最大に引き出すには、パワーリダクションプレートを取り外す必要があります。

JWA14581

⚠ 警 告

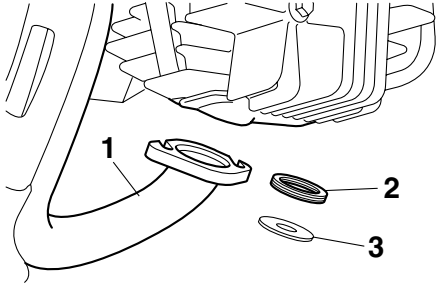
排気系統の部品に触る前に、排気システムを冷やしてください。

1. エキゾーストマニホールド取付ボルトを外し、エキゾーストマニホールドを取り外します。



1. エキゾーストマニホールド取付ボルト

2. ガスケットを取り外します。
3. パワーリダクションプレートを取り外します。



1. エキゾーストマニホールド
2. ガスケット
3. パワーリダクションプレート

要　点

パワーリダクションプレートは、再度使用する場合に備え、取扱説明書といっしょに保管しておいてください。

4. 新品のガスケットとエキゾーストマニホールドを取り付け、エキゾーストマニホールド取付ボルトを締め付けます。

締め付けトルク：
エキゾーストマニホールド取付ボルト：
18 Nm (1.8 kgf·m)

JAU49890

トランスミッションオイル

トランスミッションオイル量は乗車前に毎回、点検してください。また、トランスミッションオイルは「定期点検整備項目（一般）と給油」に指定されている時期に交換してください。

トランスミッションオイル量の点検

1. 車を平坦なところで垂直に立てます。

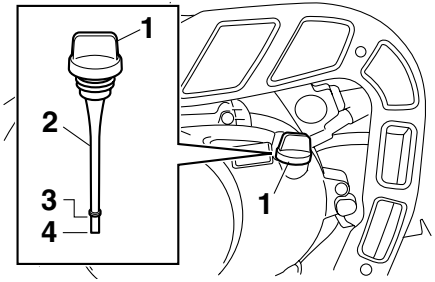
要　点

オイル量を点検するときは、車体が直立していることを確認してください。傾いていると正しく読み取れません。

2. 数分間待って、オイルが安定してからオイル注入口のキャップを外し、オイルレベルゲージをきれいに拭いてオイル注入口に（ねじ込まないで）差し込み、もう一度取り出してオイル量を点検します。

要　点

オイル量はフルレベルとオイルレベルゲージの先端の間にあるようにしてください。

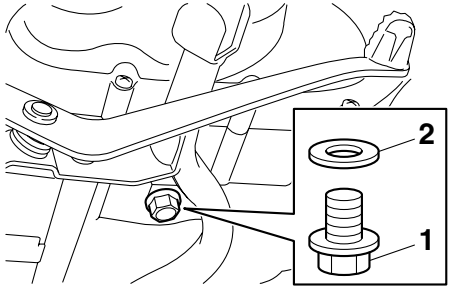


1. オイル注入口キャップ
2. オイルレベルゲージ
3. フルレベル
4. オイルレベルゲージの先端

3. もしもオイルの量がオイルレベルゲージの先端に満たない場合は、推奨されたオイルを規定のレベルまで補充します。
4. オイルレベルゲージをオイル注入口に差し込み、キャップを締めます。

トランスミッションオイルの交換

1. エンジンを始動し、数分間運転してから停止します。
2. 使用済みのオイルを回収するため、トランスミッションの下にオイルトレーを置きます。
3. オイル注入口のキャップとトランスミッションオイルドレンボルトとガスケットを取り外し、トランスミッションからオイルを抜き取ります。



1. トランスミッションオイルドレンボルト
2. ガスケット

4. 新しいガスケットとトランスミッションオイルドレンボルトを取り付け、規定トルクで締め付けます。

締め付けトルク：
トランスミッションオイルドレンボルト：
20 Nm (2.0 kgf·m)

5. 規定量の推奨トランスミッションオイルを補充してから、オイル注入口のキャップを取り付けてしっかりと締めます。

推奨オイル：
（8-3 ページ参照）
オイル容量：
0.65 L

JCA10452

注 意

- **クラッチの滑りを防ぐため（トランスミッションオイルにはクラッチの潤滑作用もあるため）、いかなる化学添加剤も混ぜないでください。ディーゼル車用の CD 級オイルや、指定よりも高いグレードのオイルは使わないでください。また、ENERGY CONSERVING II 以上のラベルのついたオイルは使わないでください。**
- **トランスミッションに異物が入らないように注意してください。**

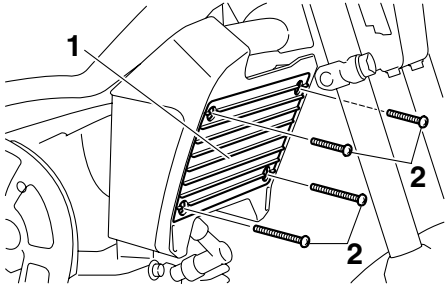
6. エンジンを始動し、数分間アイドリングさせながら、トランスミッションオイルの漏れがないかを点検します。もし、漏れていたらエンジンをただちに停止し、原因を調べてください。

JAU41163

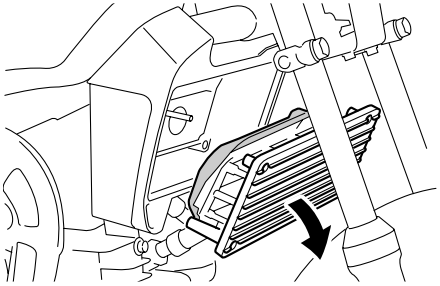
エアクリーナーエレメントの清掃

エアクリーナーエレメントは「定期点検項目（排ガス関連）」で指定する時期に点検整備を行ってください。ほこりの多い場所や湿気の多い場所を走行する機会が多い場合は、指定の時期より早めにエアクリーナーエレメントを清掃し、必要に応じてエレメントを交換してください。

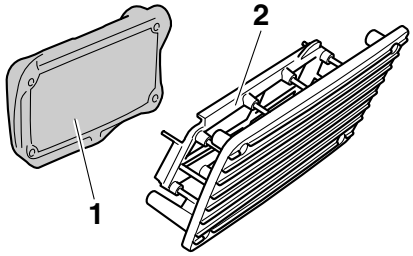
1. スクリューを外し、エアクリーナーケースカバーを取り外します。



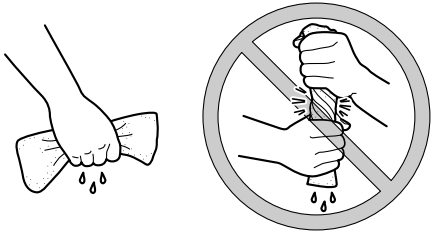
1. エアクリーナーケースカバー
2. スクリュー



2. エアクリーナーエレメントを取り外し、きれいな灯油で洗浄して軽くしぼります。



1. エアクリーナーエレメント
2. エアクリーナーケースカバー



3. ME-R フィルターオイルをエアクリーナーエレメントの表面全体に塗布してから、布切れなどで包み、しぼります。

要 点

エアクリーナーエレメントは湿った状態にしますが、オイルがたれる程にはしないでください。

指定オイル：
ME-R フィルターオイル

4. エアクリーナーエレメントをエアクリーナーケースカバーに取り付けます。

JCA10481

注 意

- **エアクリーナーエレメントがエアクリーナーケースに正しく装着されていることを確認してください。**
- **エアクリーナーエレメントを取り付けないままエンジンを始動しないでください。これを行うと、ピストンやシリンダーの摩耗が激しくなります。**

5. エアクリーナーケースカバーを取り付け、スクリューを締め付けます。

JAU41232

スパークアレスターの清掃

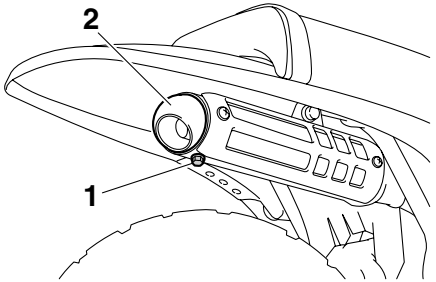
スパークアレスターは「定期点検項目（排ガス関連）」に示された時期に清掃を行ってください。

JWA10980

⚠警 告

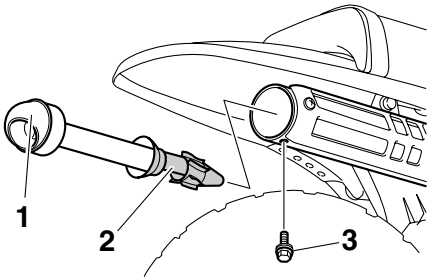
- **排気系統の部品に触れる前に、排気システムを冷やしてください。**
- **排気系統を清掃する時は、エンジンを始動しないでください。**

1. テールパイプ取り付けボルトを取り外してテールパイプをマフラーから引き出します。



1. テールパイプ取り付けボルト
2. テールパイプ

2. テールパイプを軽くたたいてからワイヤーブラシを使ってテールパイプのスパークアレスター部分と内部に堆積したカーボンを取り除きます。



1. テールパイプ
2. スパークアレスター
3. テールパイプ取り付けボルト

3. テールパイプをマフラーに差し込み、規定のトルクでテールパイプ取り付けボルトを締め付けます。

締め付けトルク：
テールパイプ取り付けボルト：
8 Nm (0.8 kgf·m)

要　点

テールパイプを差し込むとき、ボルトの穴が正しく合うようにしてください。

JAU39930

キャブレターの調整

キャブレターはエンジンの重要な部品で、非常に高度な調整が要求されます。キャブレターの調整はヤマハ販売店で行ってください。ただし、以下に示す調整は日常の整備のひとつとしてご使用のかたご自身でも調整できます。

JCA10550

注 意

キャブレターは工場で調整され、広範囲にテストを受けています。技術的な知識がない人がセッティングを変更すると、エンジン性能が低下したり、エンジンを損傷することがあります。

JAU42242

エンジンアイドリング回転数の調整

エンジンアイドリング回転数は「定期点検項目（排ガス関連）」に従って点検し、必要に応じて以下の手順で調整を行ってください。

要　点

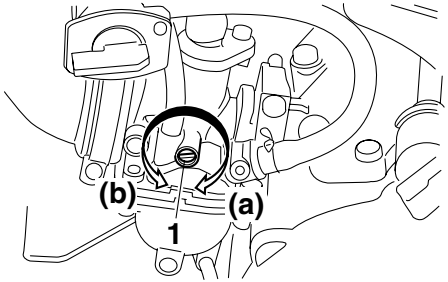
この調整を行うには、測定用のタコメーターが必要です。

1. 測定用のタコメーターをスパークプラグのリード線に取り付けます。
2. エンジンをかけて 1000 ～ 2000 回転で数分間運転します。この間、ときどき4000～5000回転まで、回転を上げます。

要　点

スロットルレスポンスが良くなれば、エンジンは暖まっています。

3. エンジンのアイドリング回転数を点検します。調整が必要な場合は、スロットルストップスクリューを調整しながら規定のエンジン回転数に設定します。エンジン回転数を上げるにはスクリューを (a) 方向に回します。エンジン回転数を下げるにはスクリューを (b) 方向に回します。



1. スロットルストップスクリュー

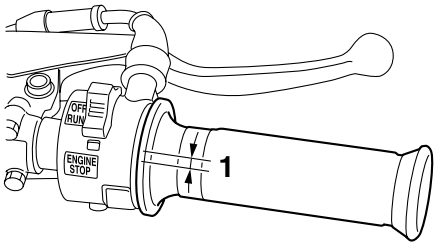
アイドリング回転数：
1650–1750 r/min

要　点

以上の手順で規定のアイドリング回転数に設定できない場合、ヤマハ販売店で調整を行ってください。

JAU21374

スロットルグリップの遊びの調整



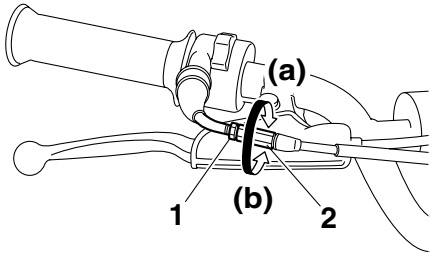
1. スロットルグリップの遊び

スロットルグリップの遊びは、グリップのツバの外周部分で 3.0–5.0 mm です。スロットルグリップの遊びは定期的に点検し、必要に応じて以下の手順で調整を行ってください。

要　点

スロットルグリップの遊びを調整する前に、エンジンのアイドリング回転数の調整を正確に行う必要があります。

1. ロックナットをゆるめます。
2. スロットルグリップの遊びを増やすときはアジャスターを (a) 方向に、スロットルグリップの遊びを減らすときはアジャスターを (b) 方向に回します。



1. ロックナット
2. アジャスター

3. ロックナットを締め付けます。

JAU39824

タイヤ

車の性能と耐久性を最大限に引き出しながら安全に乗っていただくために、指定のタイヤについて以下の点に注意してください。

タイヤ空気圧

タイヤ空気圧は乗車前に毎回点検して、必要に応じて調整してください。

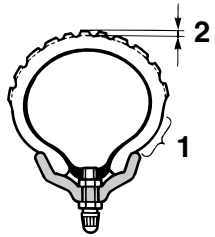
JWA15370

⚠ 警 告

空気圧の確認は、タイヤが冷えている状態で(タイヤの温度と外気温が同じ時に)行ってください。

タイヤ空気圧：
前輪：
100 kPa (1.00 kgf/cm²)
後輪：
100 kPa (1.00 kgf/cm²)

タイヤの点検



1. サイドウォール
2. 溝の深さ

タイヤは乗車前に毎回点検してください。タイヤ中央の溝の深さが使用限度に達していたり、釘やガラスの破片が刺さっていたり、あるいはサイドウォールに異常がある場合は、ヤマハ販売店で点検整備を受けてください。

タイヤの溝の深さの使用限度：
4.0 mm

タイヤの情報

この車はスポークホイールとチューブタイヤを装備しています。

JWA10461

⚠ 警 告

- **前後輪ともに同じメーカー、同じデザインのタイヤを使用してください。そうしなかった際のハンドリングの特性について、一切保証しません。**
- **ヤマハが、長期試験を経てこのモデル用に認定したタイヤは、下記のリストのものです。**

前輪：
サイズ：
2.50-14 4PR
メーカー／型式：
CHENG SHIN/KNOBBY
後輪：
サイズ：
3.00-12 4PR
メーカー／型式：
CHENG SHIN/KNOBBY

JWA15541

⚠ 警 告

- **過度にすり減ったタイヤはヤマハ販売店で交換してください。過度にすり減ったタイヤで運転すると操縦安定性が低下し、制御不能になるおそれがあります。**
- **タイヤを含め、ホイールやブレーキ関連の部品交換は、ヤマハ販売店で行ってください。**

7

● タイヤの交換をした後は、タイヤがリムに完全になじむよう、「ならし運転」をしてください。タイヤが完全になじんでいないと車の損傷や運転者のケガにつながるおそれがあります。

JAU21943

スポークホイール

JWA10610

⚠警 告

このモデルのホイールは、チューブレスタイヤ用に設計されておりません。チューブレスタイヤは使用しないでください。

バイクの性能と耐久性を最大限に引き出しながら、永く、安全に乗っていただくために、指定ホイールに関する以下のポイントに注意してください。

- ホイールのリムにひびや曲がり、歪みやスポークのゆるみ、損傷がないか、乗車前に毎回点検してください。損傷があった場合、ヤマハ販売店でホイールを交換してください。ホイールに関してはたとえ小さな修理であっても行わないでください。変形したり、ひびが入っているホイールは必ず交換してください。
- タイヤかホイールのどちらかを交換したら、必ずホイールのバランス取りを行ってください。ホイールのバランスが取れていないと、性能の低下やハンドリング特性の悪化、タイヤの寿命が縮まるおそれがあります。

JAU46080

アクセサリーと交換部品

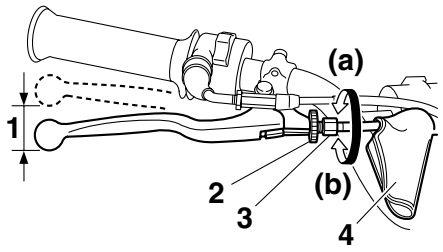
JWA14481

⚠警 告

アクセサリーや交換部品は、この車用に設計されたものでなければなりません。また、設計上の本来の安定性が維持されるよう、確実に装着されなければなりません。ヤマハ純正部品とアクセサリーは、あなたのお車に合うよう設計され、テストされています。ご購入前にヤマハ純正部品とアクセサリーのことを考慮に入れてください。ヤマハが認可していないアクセサリーや交換部品の使用は、操縦安定性や安全運転に支障があることもあります。ヤマハは他社製のアクセサリーや部品の品質について管理できませんので、ヤマハが認可していない部品の使用によって起きるあらゆる結果に対しては責任を負いかねます。

JAU44883

ブレーキレバーの遊びの調整



1. 遊び
2. ロックナット
3. アジャスター
4. ゴムカバー

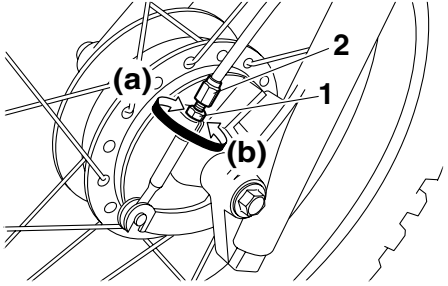
ブレーキレバーの遊びはレバー先端部で 10.0–20.0 mm です。ブレーキレバーの遊びは定期的に点検し、必要に応じて以下の手順で調整を行ってください。

1. ゴムカバーをずらします。
2. ブレーキレバー部のロックナットをゆるめます。
3. ブレーキレバーの遊びを増やすときはアジャスターを (a) 方向に回します。ブレーキレバーの遊びを減らすときはアジャスターを (b) 方向に回します。

要　点

上記の手順で、ブレーキレバーの遊びを規定の範囲に調整できた場合は、手順 8 に進んでください。

4. ブレーキレバー部のアジャスターを (a) 方向にいっぱいまで回して、ブレーキケーブルをゆるめます。
5. ブレーキシュープレート部のロックナットをゆるめます。
6. ブレーキレバーの遊びを増やすときは、ブレーキシュープレート部のアジャスターを (a) 方向に回します。ブレーキレバーの遊びを減らすときはアジャスターを (b) 方向に回します。

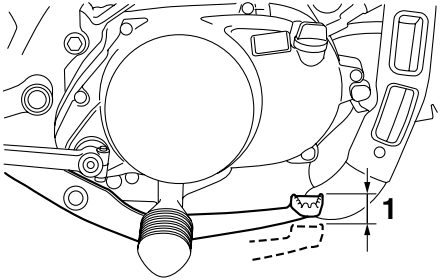


1. ロックナット
2. アジャスター

7. ブレーキシュープレート部のロックナットを締め付けます。
8. ブレーキレバー部のロックナットを締め付け、ゴムカバーを元の位置に戻します。

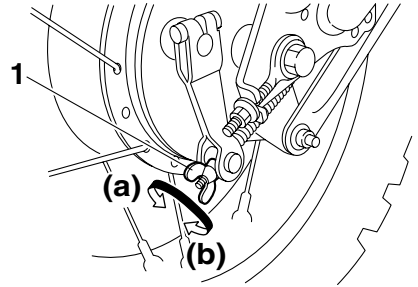
JAU44670

ブレーキペダルの遊びの調整



1. 遊び

ブレーキペダルの遊びは図に示す位置で10.0–20.0 mm です。ブレーキペダルの遊びは定期的に点検し、必要に応じて以下の手順で調整を行ってください。
ブレーキペダルの遊びを増やす時はブレーキ調整用のアジャスターを (a) 方向に、ブレーキペダルの遊びを減らす時はブレーキ調整用のアジャスターを (b) 方向に回します。



1. アジャスター

JWA14820

⚠警 告

- **ドライブチェーンの張り調整後やリヤホイールの脱着後は、必ずブレーキペダルの遊びを点検してください。**
- **説明のとおりに正しく調整できない場合には、ヤマハ販売店に調整を依頼してください。**

JAU44820

シフトペダルの点検

シフトペダルがスムーズに動くか、乗車前に毎回点検してください。スムーズに動かない場合は、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU42251

フロントブレーキシューとリヤブレーキシューの点検

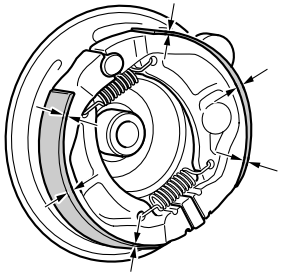
フロントおよびリヤブレーキシューは「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定された時期に点検してください。

要　点

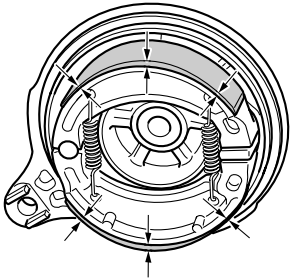
ブレーキシューの点検を行うには、ホイールを取り外す必要があります。

- フロントホイールの取り外しかた：(7-23 ページ参照)
- リヤホイールの取り外しかた：(7-25 ページ参照)

フロント



リヤ



ブレーキシューの厚さが 1.5 mm 以下のときは、ヤマハ販売店でブレーキシューの交換を行ってください。

要　点

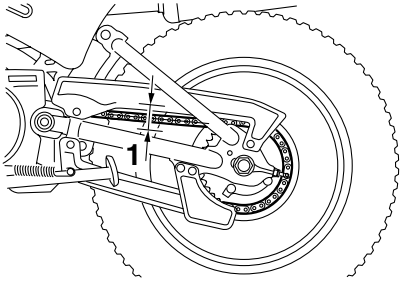
ブレーキシューの厚さを測るときは、一番薄い部分で測ってください。

JAU22760

ドライブチェーン

JAU51440

ドライブチェーンの点検



1. ドライブチェーンのたわみ量

ギヤをニュートラルにしてサイドスタンドを立てます。前後スプロケット間のチェーン中央部に、約 50N (5.0 kgf) の荷重をかけ上下に動かします。このとき、たわみ量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

要　点

ドライブチェーンのたわみ量を点検するときは、車体に荷重を掛けないで行います。

ドライブチェーンたわみ量：
40.0–53.0 mm

ドライブチェーンのたわみ量が規定の範囲にない場合は、たわみ量を調整します。

また、車体を前後にゆっくり動かしてチェーンが滑らかに回転するか、給油は充分かを点検します。
ドライブチェーンたわみ量の調整は、ヤマハ販売店にご相談ください。

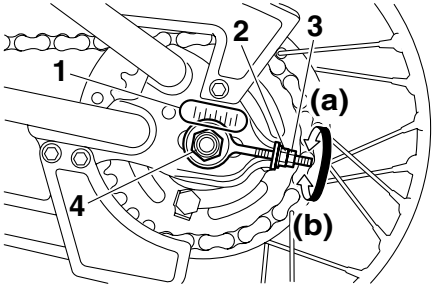
JAU42381

チェーンの張り調整

1. アクスルナットと、スイングアーム両側のロックナットをゆるめます。
2. チェーンを張るにはドライブチェーン調整ナットを (a) 方向に回します。チェーンをゆるめるにはドライブチェーン調整ナットを (b) 方向に回して、リヤホイールを前側へ押します。

要 点

ドライブチェーン調整ナットは左右均等に調整します。(刻み目盛りを左右同位置にします。)



1. 刻み目盛り
2. ドライブチェーン調整ナット
3. ロックナット
4. アクスルナット

JCA10571

注 意

ドライブチェーンの遊びが正しく調整されていないとエンジンなどの重要な部品に過負荷が発生し、チェーンの滑りや破損が生じるおそれがあります。これらを予防するため、ドライブチェーンのたわみ量は規定の量に保つようにしてください。

3. 調整後、スイングアーム両側のロックナットおよびアクスルナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
ロックナット：
7 Nm (0.7 kgf·m)
アクスルナット：
60 Nm (6.0 kgf·m)

4. ブレーキペダルの遊びを調整します。(7-16 ページ参照)

JAU23016

ドライブチェーンの給油

1. リヤホイールを浮かし、ホイールを手でゆっくり回しながらチェーンやスプロケットに付着した泥や汚れを、柔らかいブラシなどで落とします。その後、ヤマルーブスーパーチェーンクリーナーで洗浄します。
2. チェーンを乾燥させた後、リヤホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンにヤマルーブ 180 チェーンオイルを給油します。

JAU23095

ケーブルの点検と注油

すべてのコントロールケーブルの作動の状態を乗車前に毎回点検し、必要に応じてケーブルとケーブルのエンド部に注油します。ケーブルが損傷していてスムーズに動かない場合は、ヤマハ販売店に点検整備を依頼してください。

推奨する潤滑剤：
ヤマルーブ 180 ワイヤーグリース

JWA10711

⚠ 警 告

ケーブルのアウターハウジングに損傷があると錆が発生し、ケーブルの作動を妨げる原因となります。危険な状態を防止するため、損傷を受けたケーブルはできるだけ早く交換してください。

JAU23114

スロットルグリップおよびケーブルの点検と注油

スロットルグリップの作動は、乗車前に毎回点検してください。また、ケーブルは、「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期になったら、ヤマハ販売店に注油を依頼してください。

スロットルケーブルには、ゴムカバーが取り付けられています。ゴムカバーが確実に取り付けられていることを確認し、洗車時にはゴムカバーに直接水をかけないようにしてください。ゴムカバーの汚れがひどい場合には、水で濡らして固くしぼった布などでふき取ってください。

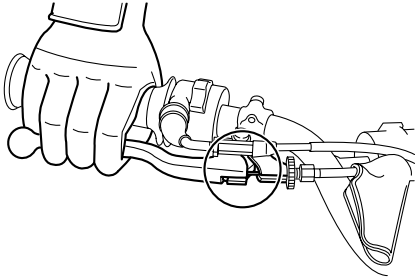
JAU42271

オートルーブポンプの調整

オートルーブポンプはエンジンの重要で繊細な部品です。「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期にしたがってヤマハ販売店で調整を行ってください。

JAU43622

ブレーキレバーの点検と注油

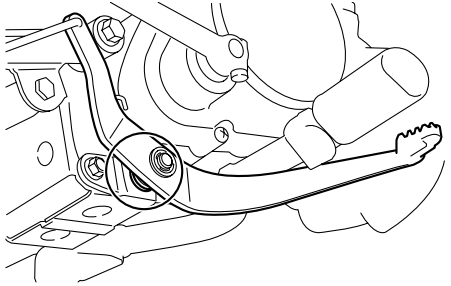


ブレーキレバーは、乗車前に毎回作動を点検し、必要に応じて作動部に注油してください。

推奨する潤滑剤：
ヤマハグリース B

JAU23182

ブレーキペダルの点検と注油



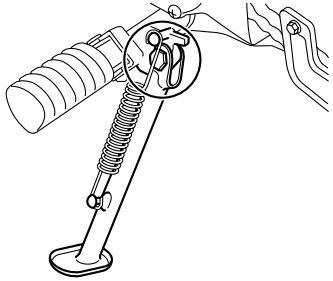
ブレーキペダルの作動は乗車毎に点検し、必要に応じてペダルの取り付け部に注油します。

推奨する潤滑剤：
ヤマハグリース B

7

JAU23202

サイドスタンドの点検と注油



サイドスタンドは、乗車前に毎回作動を点検し、必要に応じて作動部に注油してください。

JWA10731

⚠警 告

サイドスタンドの動きがスムーズでない場合は、ヤマハ販売店に点検、修理を依頼してください。

推奨する潤滑剤：
ヤマハグリースB

JAU42282

フロントフォークの点検

フロントフォークの状態と作動は、「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期に、次の手順で点検してください。

外観の点検

JWA10751

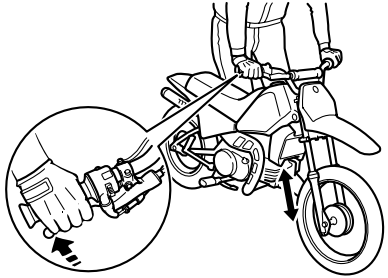
⚠警 告

車体はしっかりと支持して、転倒する危険がないようにしてください。

インナーチューブにかき傷や損傷、過度のオイル漏れがないか点検します。

作動の点検

1. 車体を平坦な場所に立て、直立した状態に保ちます。
2. フロントブレーキをかけながらハンドルを数回強く押し下げて、フォークがスムーズに伸縮し、弾力があるか確認します。



JCA10590

注 意

何らかの損傷が見られたり、フロントフォークがスムーズに作動しない場合は、ヤマハ販売店に点検、修理を依頼してください。

7

JAU42291

ステアリングの点検

ステアリングのベアリングが摩耗していたりゆるんでいたりすると、大変危険です。したがって、「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期にステアリングの作動性を点検してください。

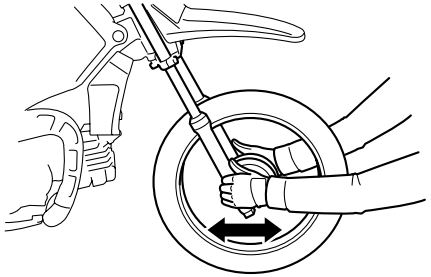
1. エンジンの下部にスタンドを置いて、前輪を浮かせます。

JWA10751

⚠ 警 告

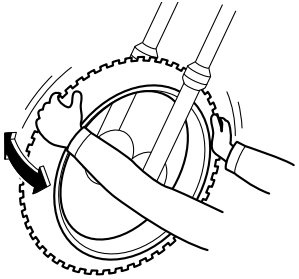
車体はしっかりと支持して、転倒する危険がないようにしてください。

2. フロントフォークの先端をつかんで、前後に動かし、異常なガタつきがある場合は、ヤマハ販売店にステアリングの点検、修理を依頼してください。



JAU23291

ホイールベアリングの点検



フロントおよびリヤのホイールベアリングは、「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期にしたがって注油してください。ホイールハブに遊びがあったり、ホイールがスムーズに回転しない場合は、ヤマハ販売店でホイールベアリングの点検整備を受けてください。

JAU24350

車体の支持

このモデルはメインスタンドを装備していませんので、フロントホイールやリヤホイールを取り外したり、車体を支持する必要のある整備を行う際には以下に示すようにして車体を支持してください。

フロントホイール

1. 車体の後部をオートバイ用のスタンドを使って支持します。オートバイ用のスタンドがない場合はリヤホイール前方のフレーム下部にジャッキをかけて支持してください。
2. オートバイ用スタンドを使ってフロントホイールを地面から持ち上げます。

リヤホイール

オートバイ用スタンドを使ってリヤホイールを地面から持ち上げます。オートバイ用のスタンドがない場合はリヤホイール前方のフレーム下部、またはスイングアームの両側にジャッキをかけて支持してください。

JAU24360

フロントホイール

JAU49912

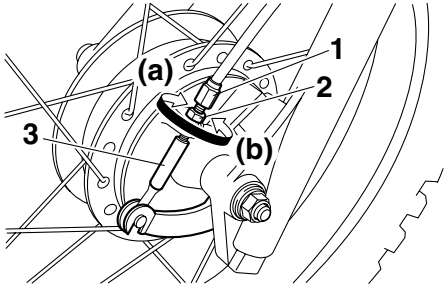
フロントホイールの取り外しかた

JWA10821

⚠警 告

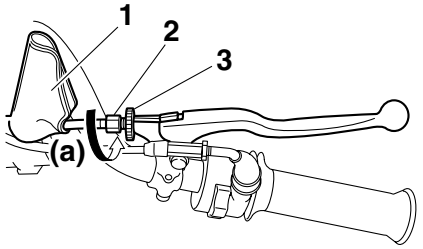
- **ホイールの修理は、ヤマハ販売店に依頼することをおすすめします。**
- **車体はしっかりと支持して、転倒する危険がないようにしてください。**

1. フロントホイールハブ側のロックナットをゆるめ、アジャスターを（a）方向に一杯に締め込みます。



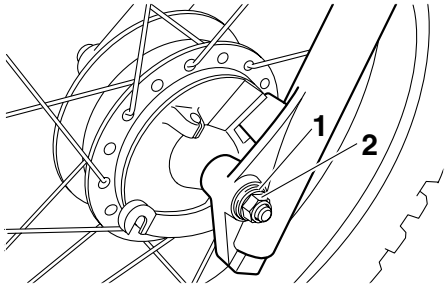
1. アジャスター
2. ロックナット
3. ゴムカバー

2. ブレーキレバー側のゴムカバーをずらします。
3. ブレーキレバー側のロックナットをゆるめ、アジャスターを（a）方向に一杯に締め込みます。



1. ゴムカバー
2. アジャスター
3. ロックナット

4. ブレーキケーブルをブレーキレバーから取り外します。
5. フロントホイールハブ側のゴムカバーをずらします。
6. フロントホイールハブ側のアジャスターを（b）方向に回し、ブレーキケーブルを、フロントホイールハブから取り外します
7. アクスルナットとワッシャーを取り外します。



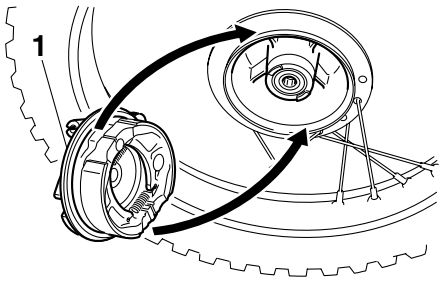
1. ワッシャー
2. アクスルナット

8. “車体の支持”を参照し、フロントホイールを地面から持ち上げます。
9. ホイールアクスルを引き抜いて、フロントホイールを取り外します。

JAU41553

フロントホイールの取り付けかた

1. 図のように、ブレーキシュープレートをホイールハブに取り付けます。

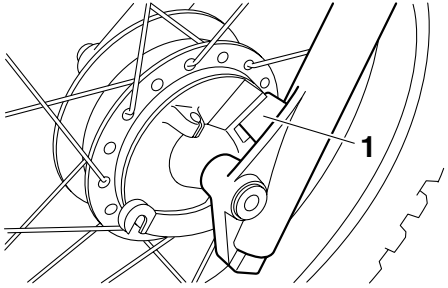


1. ブレーキシュープレート

2. フロントフォークの間にホイールを持ち上げます。

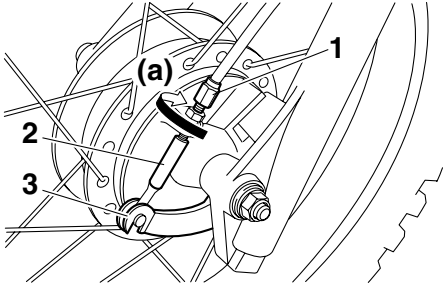
要　点

ブレーキシュープレートの溝にフロントフォークのリテーナーが合うように組み付けます。



1. リテーナー

3. ホイールアクスルを右側から差し込み、ワッシャーとアクスルナットを取り付けます。
4. フロントホイールを下げて地面に接地させ、サイドスタンドをおろします。
5. ブレーキカムシャフトレバーにブレーキケーブルを取り付けます。
6. ホイールハブ側のアジャスターを (a) 方向に回し、ゴムカバーを元の位置に戻します。



1. アジャスター
2. ゴムカバー
3. ブレーキカムシャフトレバー

7. ブレーキレバーにブレーキケーブルを取り付けます。
8. アクスルナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
アクスルナット：
35 Nm (3.5 kgf·m)

9. ブレーキレバーの遊びの調整を行います。(7-15 ページ参照)
10. ハンドルバーを何度か強く上下に押して、フロントフォークが正常に作動するか確認します。

JAU25080

リヤホイール

JAU41563

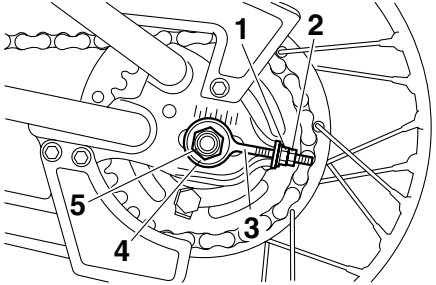
リヤホイールの取り外しかた

JWA10821

⚠警 告

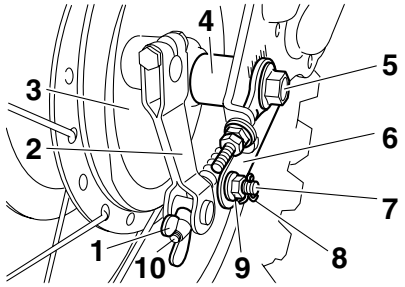
- **ホイールの修理は、ヤマハ販売店に依頼することをおすすめします。**
- **車体はしっかりと支持して、転倒する危険がないようにしてください。**

1. アクスルナットをゆるめます。



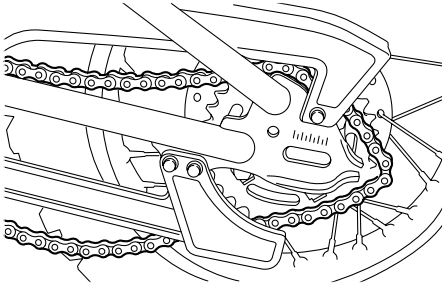
1. ドライブチェーン調整ナット
2. ロックナット
3. チェーンプラー
4. ワッシャー
5. アクスルナット

2. アジャスターを取り外し、ブレーキロッドをブレーキカムシャフトレバーから取り外します。



1. アジャスター
2. ブレーキカムシャフトレバー
3. ブレーキシュープレート
4. スペーサー
5. ホイールアクスル
6. トルクロッド
7. ボルト
8. コッタピン
9. ナット
10. ブレーキロッド

3. コッタピン、ナット、ボルトを取り外し、トルクロッドをブレーキシュープレートから取り外します。
4. スイングアーム両側のロックナットとドライブチェーン調整ナットをゆるめます。
5. リヤホイールを地面から持ち上げます。(7-22 ページ参照)
6. アクスルナットとワッシャーを取り外し、ホイールアクスルを引き抜きます。
7. スペーサーとチェーンプラーを取り外します。
8. ホイールを前方に押して、チェーンをリヤスプロケットから取り外します。



要 点

ホイールを取り外したり、取り付けたりするためにチェーンを分解する必要はありません。

9. ホイールを後ろに引いて取り外します。

JAU41573

リヤホイールの取り付けかた

1. ホイールとブレーキシュープレートをあわせてスイングアームの間に入れ、リヤスプロケットにドライブチェーンをかけます。
2. ホイールとスペーサーを同時に持ち上げながら、チェーンプラーを組み付けたホイールアクスルを右側から差し込みます。

3. ブレーキトルクロッドをブレーキシュープレートに取り付け、ボルトとナットを取り付けます。その後ナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
ブレーキトルクロッド取付ナット：
16 Nm (1.6 kgf·m)

4. ブレーキトルクロッド取付ボルトに、新品のコッタピンを取り付けます。

JWA10831

⚠ 警 告

コッタピンは常に新品を使用してください。

5. ブレーキロッドをブレーキカムシャフトレバーに取り付け、ブレーキロッドにアジャスターを取り付けます。
6. ワッシャーとアクスルナットを取り付けます。
7. リヤホイールを下げて地面に接地させ、サイドスタンドをおろします。
8. チェーンの張り調整を行います。（7-17 ページ参照）
9. アクスルナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
アクスルナット：
60 Nm (6.0 kgf·m)

10. ブレーキペダルの遊びの調整を行います。（7-16 ページ参照）

JAU25851

こんなときは

ヤマハ車は工場から出荷前に入念に点検されていますが、使用中にトラブルが発生することがあります。燃料、圧縮、点火装置のトラブルは始動不良やパワーの低下を引き起こす原因となります。
次ページのトラブルシューティングチャートには、これらの重要なシステムをご自身で点検するための手軽な手順が記載されています。点検して、修理の必要がある場合にはヤマハ販売店に車両を持ち込んでください。専用の工具を使って経験、知識の豊富な整備士が適切に修理を行います。
部品を交換するときは、必ずヤマハ純正部品を使用してください。類似部品は、ヤマハ純正部品と似ていますが、しばしば性能で劣ることがあり、長持ちしないため、結局、修理費用が高くつくことがあります。

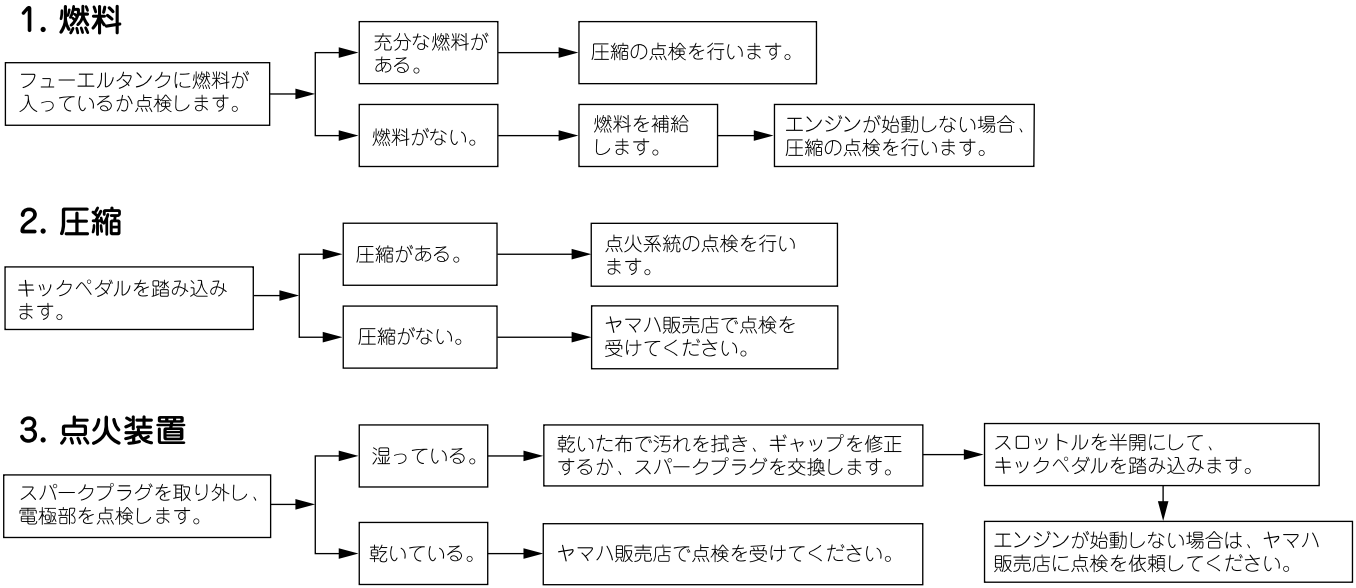
JAU25972

トラブルシューティングチャート

JWA10840

⚠警 告

燃料系統は、必ずタバコなどの火気がないところで点検作業してください。



JAU40465

お車の手入れ

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。すみずみまで清掃すれば、普段気付かない異状箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

清掃前

1. エンジンが冷えた後、マフラー出口をビニール袋で覆います。
2. スパークプラグキャップを含む全ての電装カプラーやコネクター、およびキャップやカバーが正しく取り付けられていることを確認します。
3. クランクケース上の焼き付いたオイルのような落ちにくい汚れは、脱脂剤とブラシで取ってください。ただし、脱脂剤をシール、ガスケット、スプロケット、ドライブチェーン、ホイールアクスルには決して使わないでください。汚れと脱脂剤は水で洗い落としてください。

8

清掃

JCA10772

注 意

● 強酸性のホイールクリーナーの使用（特にスポークホイールへの使用）は避けてください。落ちにくい泥汚れを落とすのにこのような製品を使用する場合は、クリーナーの使用説明書で指示された時間以上は決して放置しないでください。また水で完全に洗い流したあと、すぐに乾かし、防錆潤滑剤を塗布してください。

● ウィンドシールド、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが充分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。

● コンパウンドの入ったワックスは、プラスチック部品を傷つけますので使用しないでください。強力洗剤、研磨剤、溶剤、シンナー、燃料（ガソリン）、錆取り剤、錆止め剤、ブレーキフルード、不凍液、バッテリー液などの付着した布やスポンジは使用しないでください。

● 高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、以下の部分の故障の原因となります。：シール類（ホイールやスイングアームのベアリング、フロントフォーク、ブレーキ）、電装品（カプラー、コネクター、計器、スイッチ、ライト）、ブリーザーホース、ベントホース

● ウィンドシールドを装備している車両について：強力なクリーナーや固いスポンジは、曇りや傷の原因となりますので使用しないでください。プラスチック用コンパウンドの中には、ウインドシールドを傷付けるものがあります。あらかじめ目立たない場所で試してからご使用ください。ウインドシールドに傷がついた場合は、洗車したあとで、試用して確認済みのプラスチック用コンパウンドを使用してください。

通常の使用後

汚れをぬるま湯、中性洗剤、清潔で柔らかなスポンジで落としてください。その後、きれいな水で完全に洗い流してください。手の届きにくい箇所は、歯ブラシあるいは細めの毛ブラシを使用してください。落ちにくい汚れや虫の死骸などは、清掃前に濡れた布を２～３分間かぶせておくと落ちやすくなります。

雨天、あるいは海辺での走行後

海水に含まれる塩分は腐食性が高いため、雨天あるいは海辺での走行をする度に以下の手順で清掃を行なってください。

1. エンジンが冷えた後、車を冷水と中性洗剤で洗車します。

JCA10791

注 意

温水は塩分の腐食性を促進させますので、使用しないでください。

2. メッキ部を含む全ての金属の表面に、腐食を防ぐために防錆潤滑剤をかけてください。

洗車後

1. セーム皮か吸収性のある布で水気をよく拭き取り、乾かします。

2. すみやかにドライブチェーンを乾かし、錆を防ぐためヤマルーブ 180 チェーンオイルを給油します。
3. 金属磨き剤を使ってエキゾーストシステムを含むクローム、アルミニウム、ステンレス部品を磨きます。（ステンレスエキゾーストシステムが熱によって引き起こされた変色も、金属磨き剤で取り除くことができます。）
4. 腐食を防ぐため、メッキ部を含む全ての金属の表面に、防錆潤滑剤をかけることをおすすめします。
5. スプレーオイルを使用して残った汚れを取り除きます。
6. 石はねなどによる塗装面の傷を修正します。
7. 塗装面にワックスをかけます。
8. 保管またはカバーをかける前に車を完全に乾かします。

JWA14501

⚠警 告

- **ブレーキやタイヤには、オイルやワックスを付着させないでください。**
- **必要なら、温水と中性洗剤でタイヤを洗浄してください。洗浄後、低速で走行してブレーキやコーナリング性能を点検してください。**

JCA10800

注 意

- **スプレーオイルやワックスは少量を塗布し、拭き残しのないようにしてください。**
- **ゴムやプラスチックの部品に、プラスチック、ゴム用以外のオイルやワックスを塗布しないようにしてください。**
- **研磨剤は塗装が剥がれる原因となりますので、使用しないでください。**

要 点

アフターケア用品については、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU40653

保管のしかた

短期の保管

常に涼しくて乾燥した場所に保管してください。必要であれば、通気性のあるカバーをかけてほこりを防いでください。
なお、ボディーカバーはマフラーが冷えてからかけてください。

JCA10810

注 意

- **水分が残ったまま、通気性の悪い場所で車両を保管したり、通気性のないカバーをかけたりすると、錆の原因となります。**
- **錆を防ぐため、湿気のある場所、家畜小屋（アンモニアが発生するため）、強力な薬品が保管されている場所を避けてください。**

長期の保管

数か月間車を保管する前に：

1. この章の「お車の手入れ」の指示に従ってください。
2. “OFF” 位置のあるフューエルコックを装備した車：フューエルコックを “OFF” の位置にします。
3. キャブレターのドレンボルトをゆるめ、キャブレターフロートチャンバー内の燃料を抜きます。これにより、キャブレター内に燃料の沈殿物が溜まることを防止します。抜いた燃料は燃料タンクに入れます。

4. 以下の手順を行い、シリンダー、ピストンリングなどの腐食を防ぎます。
   a. スパークプラグキャップとスパークプラグを外します。
   b. スプーン一杯分のエンジンオイルをスパークプラグの孔に入れます。
   c. スパークプラグキャップをスパークプラグに取り付け、その後スパークプラグをシリンダヘッドに置き、側方電極が確実にアースするようにします。（次の手順中、スパークプラグで放電されます。）
   d. スターターでエンジンを数回、回します。（シリンダー壁にオイルを付着させます。）
   e. スパークプラグキャップをスパークプラグから外し、その後スパークプラグとスパークプラグキャップを取り付けます。

JWA10951

⚠ 警 告

スパークによる傷害を防ぐため、エンジンを回転させる間はプラグの側方電極を確実に接地（アース）させてください。

5. 全てのケーブルとサイドスタンド、全てのレバーとペダルの作動部に注油します。
6. タイヤ空気圧を点検し、必要であれば空気を入れます。その後、車をリフトアップして、両輪のホイールが地面から離れるようにします。それができない場合は、タイヤの接地部分に負荷がかかるのを防ぐため、毎月ホイールを少しずつ回して接地部分の位置を変えます。
7. マフラー出口をビニール袋で覆い、湿気が侵入するのを防ぎます。

要 点

車を保管する前に、必要な修理を行います。

JAU28081

アフターケア用品について

大切な車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。ヤマハの車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。

JAU28151

オートルーブスーパーオイル

ヤマハの 2 ストロークエンジンにはヤマハオートルーブスーパーオイルをご使用ください。
オートルーブスーパーオイルはヤマハの 2 ストロークエンジンのために開発されたエンジンオイルです。



JAU28190

ME-R フィルターオイル

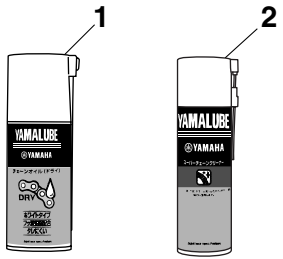
ヤマハコンペティションモデル専用に開発したフィルターオイルです。火山灰、サンド、赤土、泥ねい、泥水など、全日本 MX ラウンド全ての状況を考慮して開発・テストしてありますので、車は常に優れた性能を発揮できます。



JAU28221

ヤマルーブ 180 チェーンオイル
フッ素樹脂配合により耐摩耗性、耐熱性に優れたチェーンオイルです。“ドライ”と“ウェットムースタイプ”があります。

ヤマルーブ スーパーチェーンクリーナー
チェーンに付着したグリースやオイルなどの油汚れを手軽に素早くクリーニングします。



1. ヤマルーブ 180 チェーンオイル
2. ヤマルーブ スーパーチェーンクリーナー

JAU28271

ヤマルーブ ギヤオイル
ミッションギヤ潤滑用。極圧性が良く、また油膜強度も高く、酸化安定性にすぐれ、ベアリングの腐食や摩耗を防ぐアワ立ち性がきわめて少ない特性をもっています。

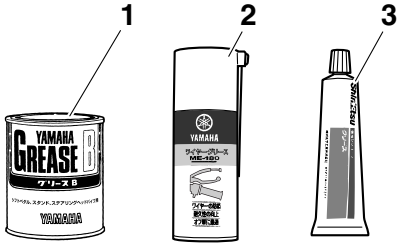


JAU41782

ヤマハグリース B
リチウム石けん基のグリースで、耐水、耐熱、耐漏れ性、せん断安定性に優れた万能タイプです。

ヤマルーブ 180 ワイヤーグリース
各ワイヤーを潤滑、保護します。土、泥、ほこり、水などの悪条件に威力を発揮します。

シリコングリース G30M
熱酸化安定性・耐久性に優れ、広い温度範囲で使用できるグリースです。油圧式ドラムブレーキおよびディスクブレーキに最適です。



1. ヤマハグリース B
2. ヤマルーブ 180 ワイヤーグリース
3. シリコングリース G30M

JAU42161

ヤマルーブ 180 防錆潤滑剤
防錆、潤滑、防湿、浸透力に優れた金属保護液です。


YAMALUBE
YAMAHA

寸法：
全長：
1540 mm
全幅：
640 mm
全高：
880 mm
シート高：
635 mm
軸間距離：
1055 mm
最低地上高：
185 mm

重量：
車両重量：
61 kg
分布荷重 （前）：
28 kg
分布荷重 （後）：
33 kg

エンジン：
原動機種類：
2 ストローク空冷
気筒数・配列：
単気筒
総排気量：
79 cm^3
内径 x 行程：
47.0 × 45.6 mm
圧縮比：
6.60 : 1
エアフィルターエレメント：
湿式エレメント
クラッチ形式：
湿式多板オートマチック
変速機形式：
常時かみ合式 3 速
始動方式：
キック式

車体：
フレーム形式：
バックボーン
キャスター：
26.00 °
トレール：
62 mm

ステアリングシステム：
ハンドル切れ角 （左）：
45.0 °
ハンドル切れ角 （右）：
45.0 °

燃料：
フューエルタンク容量：
4.9 L
予備容量：
1.0 L

フロントブレーキ：
ブレーキ形式：
機械式ドラムブレーキ

リヤブレーキ：
ブレーキ形式：
機械式ドラムブレーキ

懸架方式：
種類 （前）：
テレスコピック
種類 （後）：
スイングアーム

緩衝方式：
ショックアブソーバータイプ （前）：
コイルスプリング / オイルダンパー
ショックアブソーバータイプ （後）：
コイルスプリング / ガスオイルダンパー

フロントタイヤ：
種類：
チューブ有り
サイズ：
2.50-14 4PR
メーカー / 銘柄：
CHENG SHIN/KNOBBY

リヤタイヤ：
種類：
チューブ有り
サイズ：
3.00-12 4PR
メーカー / 銘柄：
CHENG SHIN/KNOBBY

積載量：
最大乗員体重：
40.0 kg

トランスミッション：
1 次減速比：
3.143 (66/21)

製品仕様

1 速 :
3.250 (39/12)
2 速 :
1.812 (29/16)
3 速 :
1.294 (22/17)
2 次減速比 :
2.133 (32/15)

エレクトリカル :
点火方式 :
CDI

エンジンオイル :
指定オイル :
ヤマハオートルーブスーパーオイル

トランスミッションオイル :
指定オイル :
ヤマルーブ ギヤオイル
定期交換時 :
0.65 L
エンジン分解時 :
0.75 L

エンジンオイル量 :
オイルタンク容量 :
0.75 L

ドライブチェーン :
たわみ量 :
40.0–53.0 mm

ブレーキレバーとブレーキペダル :
フロントブレーキレバー遊び :
10.0–20.0 mm
ブレーキペダル遊び :
10.0–20.0 mm

ケーブルとレバーの遊び :
スロットルグリップ遊び :
3.0–5.0 mm

フロントドラムブレーキ :
ライニング厚さ :
3.0 mm
使用限度 :
1.5 mm

リヤドラムブレーキ :
ライニング厚さ :
4.0 mm
使用限度 :
1.5 mm

ホイールトラベル :
ホイールトラベル （前）:
110.0 mm
ホイールトラベル （後）:
95.0 mm

タイヤ空気圧 （冷間時）:
前輪 :
100 kPa (1.00 kgf/cm²)
後輪 :
100 kPa (1.00 kgf/cm²)

点火タイミング :
点火時期 (B. T. D. C.):
20.6 °/4000 r/min

スパークプラグ :
メーカー / 型式 :
NGK/BPR6HS
プラグギャップ :
0.6–0.7 mm

JAU40791

ID 番号

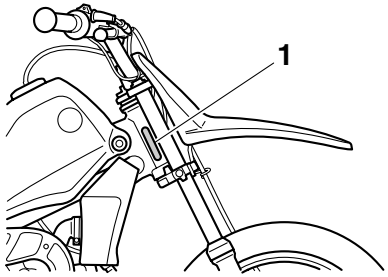
車台番号、モデルラベルの情報を下記に記録しておき、ヤマハ販売店に部品を注文する時や、車が盗難にあった場合などに役立ててください。

車台番号：

モデルラベルの情報：

JAU26400

車台番号



1. 車台番号

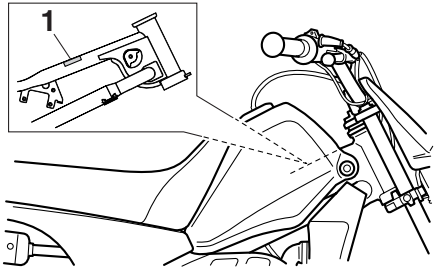
車台番号はステアリングヘッドパイプに打刻されています。指定の空欄にこの番号を控えておいてください。

要　点

車台番号は自分の車であることを識別するために使用します。

JAU26460

モデルラベル



1. モデルラベル

モデルラベルは図に示す部分に貼り付けてあります。この情報を指定の空欄に控えておいてください。この情報はヤマハ販売店に部品を注文するときに必要になります。

JAU36640

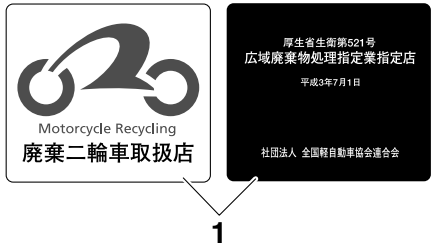
二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

（社）全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



1. 廃棄二輪車取扱店の証

10

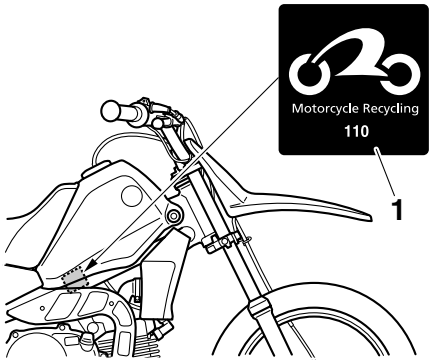
ユーザー情報

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。
廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。
剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうかが不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」または下記へお問い合わせください。
（財）自動車リサイクル促進センターホームページ
http://www.jarc.or.jp/
二輪車リサイクルコールセンター
電話番号　０３－３５９８－８０７５
受付時間　９時３０分～１７時００分（土・日・祝日・年末年始等を除く）

JAU42171

サービスマニュアル（別売）の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。このモデルでは、サービスマニュアルの代わりとして、オーナーズサービスマニュアルを紹介しています。
オーナーズサービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

PW80　オーナーズサービスマニュアル
部品番号：

QQS-CLT-211-4BC

索引

あ
ID 番号 10-1
アクセサリーと交換部品 7-14
アフターケア用品について 8-3

え
エアクリーナーエレメントの清掃 7-9
エンジンアイドリング
回転数の調整 7-11
エンジンオイル 4-4
エンジン始動 6-2
エンジン始動
（エンジンが冷えているとき） 6-1
エンジンストップスイッチ 4-1

お
オートルーブポンプの調整 7-20
お車の手入れ 8-1

き
キックスターター 4-6
ギヤチェンジのしかた 6-2
キャブレターの調整 7-11

け
ケーブルの点検と注油 7-19

こ
こんなときは 7-26

さ
サービスツール 7-1
サービスマニュアルの紹介 10-2
サイドスタンド 4-7
サイドスタンドの点検と注油 7-21

し
シート 4-6
シフトペダル 4-1
シフトペダルの点検 7-16
車体の支持 7-22
車台番号 10-1

す
ステアリングの点検 7-22
スパークアレスターの清掃 7-10
スパークプラグの点検 7-6
スポークホイール 7-14
スロットルグリップおよび
ケーブルの点検と注油 7-19
スロットルグリップの遊びの調整 7-12

た
タイヤ 7-13

ち
駐車 6-4
チョークレバー 4-5

て
定期点検項目（排ガス関連） 7-2
定期点検整備 7-1
定期点検整備項目（一般）と給油 7-3

と
ドライブチェーン 7-17
ドライブチェーンの給油 7-19
トラブルシューティングチャート 7-27
トランスミッションオイル 7-8

な
ならし運転 6-4

に
日常点検の実施 5-1
二輪車を廃棄する場合は？ 10-1

ね
燃料 4-3

は
パワーリダクションプレート 4-1
パワーリダクションプレートの
取り外しかた 7-7
ハンドルスイッチ 4-1

ふ
フューエルコック 4-5
フューエルタンクキャップ 4-2
フューエルタンク
ブリーザーホース 4-4
ブレーキ 6-3
ブレーキペダル 4-2
ブレーキペダルの遊びの調整 7-16
ブレーキペダルの点検と注油 7-20
ブレーキレバー 4-2
ブレーキレバーの遊びの調整 7-15
ブレーキレバーの点検と注油 7-20
フロントフォークの点検 7-21
フロントブレーキシューと
リヤブレーキシューの点検 7-17
フロントホイール 7-23

ほ
ホイールベアリングの点検 7-22
保管のしかた 8-2

も
モデルラベル 10-1

り
リヤクッション 4-7
リヤホイール 7-25

あなたの街のあなたのお店

YAMAHA

QQS-CLT-216-4BC

再生紙を使用しています

PRINTED IN JAPAN
2011.05-0.3×1 CR
(J)